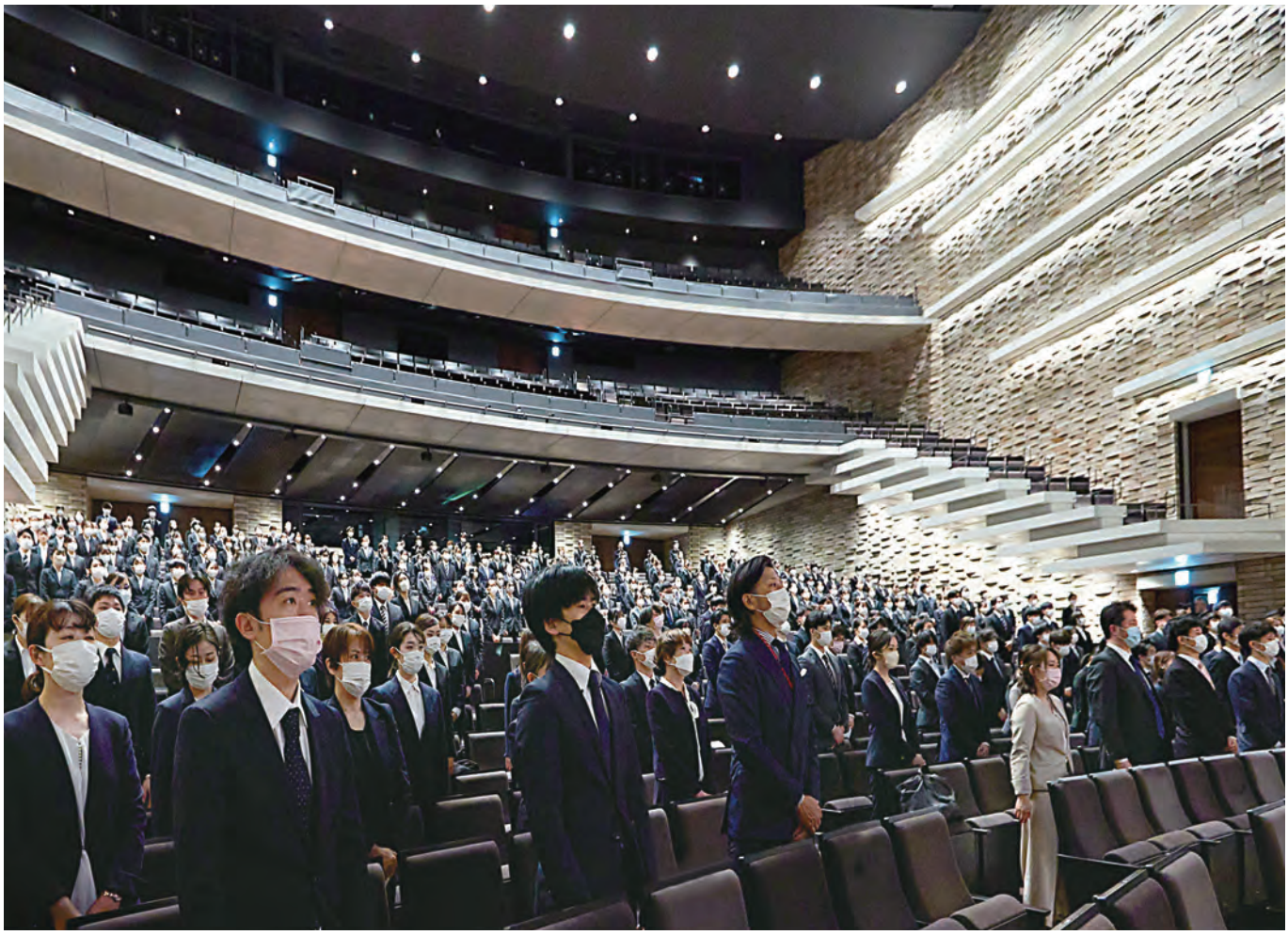
関西医科大学
KANSAI MEDICAL UNIVERSITY

May. 2024

KANSAI MEDICAL UNIVERSITY PUBLIC RELATIONS

関西医科大学 広報



枚方市総合文化芸術センター 関西医大大ホールでの入職式

新年度の新たな一歩を オール関西医大で。

Vol.65

CONTENTS

トピックス：入学式	P.1
法人：入職式	P.4
大学：卒業式	P.13
大学：退任教授最終講義	P.25
大学：文部科学大臣表彰	P.26
病院：附属病院市民公開講座	P.27

慈仁心鏡

建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

令和6年度関西医科大学入学式

関西医大大ホールでの入学式

4月5日(金) 13時30分から枚方市総合文化芸術センター 関西医大大ホールにおいて3学部2研究科合同の「令和6年度関西医科大学入学式」が行われました。387名の新入生(医学部127名、看護学部105名、リハビリテーション学部114名、大学院医学研究科28名、大学院看護学研究科13名)の新入生が医療の道への第一歩を踏み出しました。

また、医学部一般選抜試験(一般前期)最優秀成績者に贈られる「藤森民子賞」とそれに次ぐ成績で入学した学生に贈られる「鮫島美子賞」の賞状と副賞の目録が木梨学長から贈呈されました。

入学式学長式辞

学　長　木梨　達雄

本日、関西医科大学に入学された新入生の皆さん、入学まことにおめでとうございます。

医学部127名、看護学部105名、リハビリテーション学部114名の計346名と大学院医学研究科28名、大学院看護学研究科13名の計41名の新入生の皆さんを迎えることは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、誠に大きな喜びであります。また本式典にご臨席を賜りましたご来賓の皆様に厚く御礼申し上げます。新入生の皆さんは、コロナ禍のなか高校生活を過ごし、厳しい受験を突破して見事に合格されました。これまでの皆さんの努力に敬意を表します。また、皆さんの勉強と生活を支えてこられたご家族や関係の皆様に心からお祝いを申し上げます。今年は桜も皆さんの入学を祝うように咲き誇っており、一層晴れやかな祝福の場となりました。

式辞を述べる木梨学長

さて、皆さんは、これから始まるキャンパスライフに大きな期待を抱いておられることでしょう。関西医科大学について紹介します。本学は昭和3年(1928年)に枚方市の牧野の地で、大阪女子高等医学専門学校として創設され、その後大阪女子医科大学と改名し、昭和29年(1954年)に男女共学制の関西医科大学となりました。今年で創立96年を迎え、医学部卒業生総数は8,918名からなり

木梨学長と新入生(学部)代表

ます。また看護学部は昭和7年の附属看護婦養成所を前身とする、看護専門学校が5,622名の卒業生を送り出し、その後看護学部に引き継がれ今年3期生を含めて287名が卒業しています。令和3年度、リハビリテーション学部が開設され3学部からなる医療系複合大学となりました。現在、新入生の皆さんを加え学生総数は1,577名となり、医学部・看護学部は枚方キャンパスで、リハビリテーション学部は牧野キャンパスで勉学に励むことになります。

本学は4つの附属関連病院と2つの健診施設をもち、地域の中核として健康・医療・福祉にわたる包括的地域医療および高度先進医療を提供するとともに、優れた医療人を育成するために、「質の高い教育」と「特色のある先端研究」を展開することに力をいれています。すなわち、世界に通じる独創的な強みをもち、特色ある研究を推進し、よりよい治療を追求する探求心と患者さんに寄り添う心を持った優れた医療人を育成することが目標です。医学部ではグローバルスタンダードに合致した教育カリキュラムを基盤に、早期体験実習、海外臨床実習を取り入れ、看護学部・リハビリテーション学部では実践的な知識と技術に重点をおき、多くの学外実習、シミュレーション教育に力を入れています。令和2年度に開設された国際大学院ではアジア・アフリカ・ヨーロッパの留学生が博士研究に従事し、令和2年度に建てられた関医タワー内の寮で生活しています。また、同タワー内に国際化推進センターが設置され、留学生のサポートや国際連携を推進しています。リハビリテーション学部は今年で1学年から4学年までそろい、来年度に大学院修士課程を設置する予定です。本学には2つの研究所があり、附属生命医学研究所では先端の機器を完備した共同施設があり基礎・臨床研究を支援する体制を整え、さらに令和2年度には第5のがん治療と呼ばれる光免疫療法の研究を推進する国内唯一の研究所、附属光免疫医学研究所を設けています。本学はこれらの活動をとおして、世界に開かれた大学、オンリーワンの特色ある研究大学を目指しています。大学院に入学された皆さんは、研究者をめざしてこれから研究活動が始まります。研究を通して高度な知識や技術の獲得だけでなく、「問う力」すなわち、定説を疑い、新たな仮説を立てる力、それを解決に導く「問題解決力」、発見した事柄からより良い医療に導く「開発力」を養い、常に探求心を持った医療人をめざしてください。

さて、本学の建学の精神は、「慈仁心鏡」、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することで、学歌のぞみに由来しています。現代の医療は、

歓迎のことばを述べる在学生代表

藤森民子賞の贈呈

ゲノム医学、高度なIT技術とAIの導入によって大きな変革期に入ってきました。生命現象が数値に変換され、統計的正しさに裏付けられた診断・治療の自動化が追求されていくでしょう。しかし、その背後には数に置き換えることができない患者さんと家族の苦しみと喜怒哀楽があることを忘れてはなりません。患者さんの気持ちに寄り添い、患者さんに安心をあたえることは、医学・看護・リハビリテーションの医療人が持つべき重要な資質であり、AIに置き換えることができない「慈仁心鏡」に通じる精神です。

知識と技能、そして倫理観は人を大きく変える力を持っています。大学という学びの場でこれらを身につけていくことによって皆さん一人一人の能力と個性、人格が成長を始めます。命に向き合う職業に学びの終わりはなく、本当に価値があるものは、生涯の努力なしには手に入りません。まず、内から湧き出る力で殻を破り、外見にとらわれず、大地に深く根を張って、栄養を吸収し、太い幹が育つ準備をしてください。我々は、皆さんが疾風にまけない太い根、関西医大魂をもって成長するよう、畑を耕し、全力で応援します。

これから、皆さんは、医療人としての目標に向かって歩みが始まりますが、医療人として生きる目標はなんでしょうか。私は、それは「なにか、ものを手にいれること」ではなく、医療を通じて自分が社会に必要とされる人間になること、喜ばれる存在になること、有難うと言われる存在になることだと思います。そのためには、素直な気持ちで学び、謙虚な心で人に接し、自分に足りないものを気づかせてくれた人に敬意をはらってそれらを貪欲に吸収してください。謙虚さと感謝の気持ちから、あなたの周りに良い人間関係が生まれてきます。そして、お互いの違いを尊重しながら切磋琢磨し、成し遂げたいことはなにか、常に自分の内なる声に耳をかたむけ、目標に向かってすすんでください。

ここ枚方市を含む一帯はかつて交野が原と呼ばれ、伊勢物語の「渚の院」の章によりますと、平安貴族の桜狩の地であり、有名な桜の和歌が歌われた場所で、学歌のぞみにでてきます。本日、由緒ある桜の花とともに皆さんを受け入れる我々教職員は、若い力の躍動と新たな成長を予感いたします。命に向き合う職業を選んだことの重みを認識し、日々勉学に励み、深く、幅広い知識と正確な技能を身につけ、慈仁心鏡の精神を体現する医療人に成長してください。

以上、私の式辞と致します。本日は誠におめでとうございます。

鮫島美子賞の贈呈

令和６年度入職式

４月１日（月）10時から枚方市総合文化芸術センター関西医大大ホールにおいて「令和６年度入職式」が挙行され、新入職者357名が出席しました。この日は山下敏夫理事長、木梨達雄学長をはじめ、澤田敏副理事長、神崎秀陽常務理事、附属病院松田公志病院長、総合医療センター杉浦哲朗病院長、香里病院岡崎和一病院長、くずは病院高山康夫病院長らが臨席。

理事長訓辞に立った理事長は、創立96年を迎える本学および北河内地区の医療と健康を支える附属医療機関の歴史や現状を紹介。診療強化や働き方改革への取り組み、スマート病院構想などについて述べました。理事長は本学の将来展望にも触れ、本学が進化し続けるために、一人一人が関西医科大学の一員として誇りをもち、夢の実現に協力してほしいと述べました。

続いて新入職員を代表して登壇した下部消化管外科学講座渡邉純教授に、山下理事長から辞令が手渡されました。その後、渡邉教授が答辞を述べて入職式は閉式となりました。

関西医大大ホールでの入職式

山下理事長（左）から辞令を受け取る渡邉教授（右）

就任挨拶

医学部衛生・公衆衛生学講座主任教授　甲田　勝康

令和6年4月1日付で、衛生・公衆衛生学講座の主任教授を拝命致しました。選考に関わって下さった先生方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。我が国の衛生学は、明治時代に感染症の流行対策として始まりましたが、その後、労働衛生や環境衛生、食品衛生等、その関心事は時代と共に変遷してきました。一方で公衆衛生学は、戦後の社会保障制度改革と共に発展し、共同社会における組織的な取り組みに重点を置き、全ての人々が平等に健康を享受する社会を目指しています。私は平成3年から現在まで、肥満、糖脂質代謝異常症、循環器疾患、骨粗鬆症等の予防に関する地域住民の疫学研究に携わってきました。研究対象地域は北海道、福島、新潟、静岡、大阪、兵庫、香川、沖縄等の市町村です。また平成30年からは、これまでに修得した疫学・統計学の技術を生かして、本学の臨床研究支援センターで臨床研究の計画立案、統計解析等に関する相談業務に従事しています。相談件数は年間50件ほどで推移しています。ところで、最近の医師国家試験では疫学に関する出題が増えています。疫学研究から得られる科学的根拠に基づいた診療ができる医療人を現代社会が求めているからです。私は、衛生・公衆衛生学教育を通じて、科学的手法の原理および科学的根拠に基づく診療（EBM）に秀でた医療人、さらに、患者を愛し社会に貢献する医療人を育成したいと考えています。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

略　歴

平成元年３月	関西医科大学医学部　卒業
平成３年４月	浜松医科大学医学部公衆衛生学　研究生
平成７年４月	浜松医科大学医学部公衆衛生学　助手
平成15年２月	関西医科大学医学部衛生学　講師
平成18年４月	近畿大学医学部公衆衛生学　助（准）教授
平成30年６月	関西医科大学医学部衛生・公衆衛生学　研究教授
平成31年４月	関西医科大学臨床研究支援センター　副センター長
平成31年４月	関西医科大学大学院医学研究科疫学・予防医学　研究教授
令和６年４月	関西医科大学医学部衛生・公衆衛生学講座　主任教授

医学部精神神経科学講座主任教授　加藤　正樹

令和6年4月1日付で、関西医科大学医学部精神神経科学講座の主任教授を拝命いたしました。精神疾患全般の診療での幅広い経験を持ち、特にうつ病や双極性障害などの気分障害を専門としております。これまで、気分障害に関するガイドライン作成やエキスパートコンセンサスへの中心的な貢献を行ってまいりました。現在は、日本うつ病学会におけるうつ病ガイドラインの大改訂版の制作責任者を務めており、これを通じて多くの患者様が寛解へと導かれ、社会復帰を果たせるよう、本学における難治性精神疾患への取り組みを一層強化していく所存です。また、救命センター専属リエゾン精神科医としての豊富な経験を活かし、各科のニーズに応じたテーラーメードリエゾンを提供し、患者様への迅速かつ安全な介入を実現してまいります。

研究面では、遺伝子から社会実装に至るまでの多角的なアプローチを展開し、臨床薬理学を基盤としたプレシジョンメディスンの推進、ビッグデータやメタ解析を用いた社会実装研究を進めております。これらの研究を通じて、診療の質の向上と治療の最適化を目指して参ります。

教育面においては、精神科的視点を踏まえた適切な教育方法の模索と、将来の日本医療を牽引する医師の育成に、尽力してまいりたいと考えております。

これらを達成するには、他科、地域社会との連携が不可欠です。大学、病院、公共の健康・福祉がともに発展していくために、全力を尽くして参ります。皆様のご指導とご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

略　歴

平成９年	関西医科大学卒業
平成９年	関西医科大学精神神経科入局
平成11年	みずき会芸西病院 精神科
平成14年	関西医科大学助教；救命センター派遣医
平成16年	関西医科大学助教；精神神経科
平成18年	関西医科大学大学院医学研究科博士課程学位取得
平成18年	イタリアボローニャ大学精神神経科留学ポストドクトラルリサーチフェロー
平成21年	関西医科大学講師；精神神経科
平成26年	関西医科大学准教授；精神神経科
令和元年	関西医科大学附属病院；精神神経科科長
令和６年	関西医科大学医学部精神神経科学講座；主任教授

医学部上部消化管外科学講座主任教授　山﨑　誠

令和6年4月1日付で関西医科大学医学部上部消化管外科学講座主任教授を拝命いたしました。私は平成8年に大阪大学卒業後、同第二外科に入局し、関連病院での外科研修を経て、大阪大学および横浜にあるDNAチップ研究所にて研究の生活を送りました。平成17年からは大阪大学医学部附属病院にて食道癌を中心に上部消化管外科医として、臨床・研究・教育・宴会の4本柱に注力して参りました。臨床面では高度進行食道癌に対する集学的治療および拡大手術を手掛け、周囲臓器合併切除では自己組織充填による音声機能温存術式を開発するなど、手術によるQOL低下を軽減させる術式の開発も行い、本邦の第一人者として全国から紹介を受けて治療に当たっております。また、教育面では難関である日本内視鏡外科学会技術認定医を食道分野で7名輩出し、ロボット支援下食道手術においては指導医として阪神地区の普及に努めました。令和3年に関西医科大学附属病院に赴任以来、食道癌の手術症例は増加の一途をたどっておりますが、若手外科医が楽しく切磋琢磨している姿に頼もしさを感じております。医局員が楽しく活躍できる職場を作り、患者さんと一緒に笑顔で過ごせる新しいがん治療の発展に尽力していきたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

略　歴

平成８年	大阪大学医学部卒業
平成８年	大阪大学医学部附属病院　第二外科研修医
平成９年	市立貝塚病院　外科医員
平成13年	大阪大学大学院医学系研究科　病態制御外科　研究生
平成14年	DNAチップ研究所　客員研究員兼任
平成17年	大阪大学医学部附属病院　消化器外科医員
平成18年	大阪大学大学院医学系研究科外科学講座　消化器外科学　助教
平成27年	大阪大学大学院医学系研究科外科学講座　消化器外科学　講師
平成29年	大阪大学大学院医学系研究科外科学講座　消化器外科学　准教授
平成30年	大阪大学医学部附属病院　病院教授
令和３年	関西医科大学　外科学講座　准教授
令和４年	関西医科大学附属病院　病院教授
令和６年	関西医科大学　医学部上部消化管外科学講座　主任教授

医学部下部消化管外科学講座主任教授　渡邉　純

令和6年4月1日付で関西医科大学医学部下部消化管外科学講座の主任教授を拝命いたしました。平成13年に横浜市立大学を卒業後、平成15年に横浜市立大学第二外科に入局し、関連病院で消化器外科手術の研鑽を積み、平成21年からは主に大腸癌に対する診療に従事して参りました。これまでに2,000例以上の腹腔鏡下（ロボット）大腸癌手術の経験を有し、主に腹腔鏡手術、ロボット手術などの低侵襲治療法の開発・導入に早くから取り組み、根治性を落とさず、また合併症を増加させることなく、患者さんにこの低侵襲治療を届けると共に、地域医療に貢献するべく一意専心、日々研鑽して参りました。赴任後は、これまでの大腸癌手術の臨床経験を十分に活かし、大腸癌の手術成績の向上、根治性の向上に努め、最良の手術治療を提供します。患者さまの個別のニーズと希望に対応する治療を推進し、受診されるすべての患者さまに最良の医療を提供します。若手医師にも早くから最新の技術に触れ、手術経験を積んでいただくことによって、若い世代にとって魅力ある教室を、若手医師や女性医師がライフイベントと診療業務を両立させていけるような職場環境を整えていくことにも注力していきたいと考えております。また、学生教育にも力を入れ、本学の医学生が下部消化管外科を志したいと思える環境を整えていきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

略　歴

平成13年３月	横浜市立大学医学部卒業
平成13年５月	国家公務員共済組合連合会虎の門病院　外科レジデント
平成15年４月	横浜市立大学医学部第二外科　入局
平成15年４月	国家公務員共済組合連合会横須賀共済病院　外科
平成16年４月	横浜市立市民病院　外科
平成17年４月	東京厚生年金病院　外科
平成18年４月	横浜市立大学大学院医学研究科消化器病態外科学　大学院入学
平成18年５月	理化学研究所ゲノム科学総合研究センター　客員研究員
平成21年４月	横浜市立市民病院　外科
平成23年４月	横浜市立大学医学部　消化器・腫瘍外科　助教
平成24年４月	国家公務員共済組合連合会　横須賀共済病院　外科
平成25年４月	国家公務員共済組合連合会　横須賀共済病院　外科医長
平成28年１月	国家公務員共済組合連合会　横須賀共済病院　外科副部長
平成29年４月	横浜市立大学附属市民総合医療センター　消化器病センター外科　講師
令和３年４月	横浜市立大学附属市民総合医療センター　消化器病センター外科　准教授
令和６年４月	関西医科大学医学部下部消化管外科学講座　主任教授

医学部肝臓外科学講座主任教授　海堀　昌樹

令和6年4月1日付で、肝臓外科学講座主任教授を拝命いたしました。平成3年に本学を卒業し、以来30年余り、肝臓疾患の診療と研究に携わってきました。第一に、肝臓外科医として安全丁寧な合併症を起こさない細心の手術を行うことを信念にやってまいりました。チーム一丸となって、現在では手術数では年間約180件、ここ数年は全国3位以内（西日本においては1位）を継続しており、最も肝臓外科手術数の多い病院の一つと評価をいただけるまでになっております。

第二に、私は数多くの症例に触れる中で、臨床を追い求めた先にある「悩み」を研究によって解決したい想いで研究に邁進してきました。病態の原因解明のための基礎研究に始まり、新しい手術術式の開発、術後合併症克服の工夫、新しい医療機器開発のトランスレーショナルリサーチが外科学の発展のためには必須のものと認識し、実践してまいりました。また、自ら寄附講座や社会連携講座をたちあげ、敏感に患者さんや社会のニーズに迅速に応える方法を模索しながら研究に取り組んでおります。

第三に基礎と臨床ともに興味のある外科研究者の育成を目標とし、今後も大学院生や国際留学生を数多く指導していきたいと考えております。教育は短期間で結果が出るものではありませんが、一人でも多くの優秀な人材を送り出していくよう努めたいと考えています。

日々進歩する医療現場の中で、スピード感のある「決断と実行」をもって、肝臓外科学講座の更なる発展に寄与してまいりたい所存でございます。今後ともご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしく御願い申しあげます。また、10年以上共に歩んできてくれた同僚の先生方、そのご家族様、秘書さんへこの場をお借りして深謝申し上げます。

略　歴

平成３年３月	関西医科大学　卒業
平成４年２月	国保古座川病院外科出向
平成５年２月	城山病院出向
平成５年５月	関西医科大学附属香里病院外科助手
平成９年４月	京都大学　医学部移植外科国内留学
平成19年４月	関西医科大学　外科学講座　助教
平成21年４月	関西医科大学　外科学講座　講師
平成25年４月	関西医科大学　外科学講座　准教授
平成27年４月	関西医科大学次世代低侵襲外科治療学講座（寄附講座）准教授（兼任）
平成28年10月	千葉大学　フロンティア医工学センター特別研究准教授
平成30年８月	関西医科大学　外科学講座　診療教授 関西医科大学　次世代低侵襲外科治療学講座（寄附講座）教授（兼任）
令和２年７月	関西医科大学　サージカルサイエンス社会連携講座　教授（兼任）
令和６年４月	関西医科大学　医学部肝臓外科学講座　主任教授

医学部胆膵外科学講座主任教授　里井　壯平

令和6年4月1日付で、胆膵外科学講座主任教授を拝命いたしました。関西医科大学（以下、本学と略）を卒業後、一般外科研修・大学院課程を修了し、英・仏・独国で計1年半の間、肝胆膵・移植外科の臨床ならびに研究に従事しました。本学へ帰学後は、主に胆膵外科医として積極的に臨床研究を主導し、術式および周術期管理の標準化・後進の育成に努めてまいりました。年間400件を超える胆膵外科手術を行っており、現在の手術件数とその成績は本邦において有数の施設となっています。また、難治癌である膵癌において、完治を目指すべく平成12年から世界に先駆けて集学的治療を導入してきました。中でも極めて予後不良で癌随伴症状が高率に出現し、有効な治療法のない腹膜転移膵癌に対して、抗癌剤の腹腔内投与を行うレジメンを導入し、良好な成績を収めてきました（先進医療Bに承認（平成29年（先-269）第3号））。他にも、胆膵領域疾患は緊急対応を要することが多く、当院での緊急診療体制の整備、地域連携の確立、後送病院の確保を行うことで、患者さんとその家族にとって安心・安全で、満足度の高い診療が受けられる体制を構築しております。

これからも、胆膵外科はチーム医療をモットーとして難治疾患に取り組み、国内のみならず欧米・アジア各国とも連携し治療の標準化を追求すると共に、高度外科医療（低侵襲ならびに高難度手術）を実践してまいります。微力ながら、本学のますますの発展に寄与して参りたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

略　歴

平成３年３月	関西医科大学卒業
平成３年５月	関西医科大学附属病院外科　医員
平成６年４月	八尾徳洲会総合病院外科　医員
平成11年４月	英国　バーミンガム大学　肝胆膵・移植外科臨床研究員
平成12年４月	仏国　リヨン赤十字病院　一般・肝移植外科臨床研究員
平成12年５月	独国　レーバークーセン総合病院　一般外科臨床研究員
平成12年８月	独国　ハンブルグ大学　肝胆膵外科臨床研究員
平成12年10月	関西医科大学　第一外科　研究医員
平成13年１月	関西医科大学　第一外科　助手
平成15年４月	関西医科大学　外科　助手
平成21年４月	関西医科大学　外科　講師
平成25年４月	関西医科大学　外科学講座　准教授
平成25年５月	東京医科大学　消化器・小児外科学講座　客員准教授
平成27年８月	東京医科大学　消化器・小児外科学講座　客員教授
平成30年８月	関西医科大学　外科学講座　胆膵外科担当診療教授
令和元年11月	米国コロラド大学　腫瘍外科学　客員教授、faculty member
令和３年１月	リトアニア　ビリニュス大学　外科学　客員教授
令和６年４月	関西医科大学　医学部胆膵外科学講座　主任教授

医学部小児外科学講座主任教授　土井　崇

令和6年4月1日付けで、関西医科大学小児外科学講座主任教授を拝命いたしました。ご推挙いただきました関係の方々に厚く御礼申し上げます。私は順天堂大学医学部を卒業後、順天堂大学附属順天堂医院にて一般外科および小児外科の修練を積みました。順天堂大学大学院で医学博士号を取得後、アイルランド国立ダブリン大学大学院にてPh.D.を取得しました。平成29年6月に本学外科学講座小児外科担当診療教授を拝命し、本学附属病院にて7年間、小児外科診療科長として高度かつ専門的な新生児・小児外科手術を力強く推進して参りました。小児外科では新生児期から思春期までの、脳と心臓を除く全身の臓器を幅広く対象としています。本学附属病院では令和4年度に547例の小児手術を実施しており、この症例数は関西2府4県の大学附属病院内で群を抜いて1位です。その過半数を占める276例が低侵襲内視鏡外科手術であることが特長で、最先端の高精細8K内視鏡外科システムを用いて、安全確実な、患児に優しい外科医療を提供しています。学術的には令和4年10月に小児外科系国際学会を会長として主催し成功を収めており、小児外科領域では国際的なコミュニケーション能力が最も長けている外科医の1人です。本学の医学生、研修医、若手医師にも教育の場を通して、グローバルに情報発信ができる人材を育成します。最後に、本学附属病院が大阪府北河内医療圏における基幹病院であることを念頭に、地域医療連携を強化し、今後更なる診療実績の向上に貢献できるよう全力で取り組んでまいります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

略　歴

平成14年３月	順天堂大学医学部卒業
平成14年３月	順天堂大学医学部附属順天堂医院　外科研修医
平成18年３月	順天堂大学大学院修了　医学博士号取得
平成18年４月	順天堂大学医学部小児外科学講座　助手
平成19年４月	順天堂大学医学部小児外科学講座　助教
平成19年10月	アイルランド国立小児研究所　上級研究員
平成23年６月	アイルランド国立ダブリン大学大学院修了　PhD取得
平成24年１月	順天堂大学医学部小児外科学講座　准教授
平成29年６月	関西医科大学外科学講座小児外科担当診療教授
令和６年４月	関西医科大学医学部小児外科学講座　主任教授

医学部乳腺外科学講座主任教授　髙田　正泰

令和6年4月1日付で関西医科大学乳腺外科学講座主任教授を拝命いたしました。平成12年に北海道大学医学部を卒業後、東京都立駒込病院での修練を経て、平成19年に京都大学乳腺外科学講座に入局しました。それ以来、乳腺疾患の診療・教育・研究に従事してまいりました。乳がん手術の豊富な経験を有し、乳房再建術や遺伝性乳がんの予防的乳房切除術も積極的に取り組んできました。センチネルリンパ節生検を実施する際にプロジェクションマッピングを用いて術野にリンパ節の位置を直接示す医療機器の開発に携わり、現在は臨床で活用されています。薬物療法に関する数多くの臨床試験および治験に関与してきました。特に、多施設共同第Ⅲ相試験であるPOTENT試験の試験事務局を務め、再発高リスクのホルモン受容体陽性/HER2陰性早期乳がんの術後治療としてのS-1の効果を明らかにし、これが保険適応へと繋がりました。学生や若手医師の教育に注力し、数多くの乳腺専門医を育成してきました。若手を対象とした国際学術交流会の企画・運営にも取り組んでいます。乳がん診療においては、集学的治療を基本とし、関連する診療科や部門との連携が非常に重要です。チームで一丸となり世界標準の安心・安全な医療を提供し、患者満足度の向上に努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

略　歴

平成12年　北海道大学医学部医学科卒業
平成13年　東京都立駒込病院　研修医, 医員
平成19年　京都大学医学部附属病院　医員
平成22年　日本学術振興会特別研究員
平成22年　Dana-Farber Cancer Institute, Harvard Medical School　海外研修
平成23年　Seoul National University Hospital　海外研修
平成24年　京都大学博士(医学)
平成24年　京都大学医学部附属病院　特定助教
平成26年　京都大学医学部附属病院　助教
平成27年　Addenbrooke's Hospital, Cambridge University Hospital　海外研修
平成28年　Cleveland Clinic　海外研修
令和３年　京都大学大学院医学研究科　准教授
令和６年　関西医科大学　医学部乳腺外科学講座　主任教授

医学部脳神経外科学講座主任教授　埜中　正博

令和6年4月1日付で関西医科大学脳神経外科学講座の主任教授を拝命いたしました。

私は平成4年に大阪大学卒業後、大学院、ペンシルバニア大学への留学を経て、主に国立病院機構大阪医療センターにて研鑽を積みました。その後平成26年4月より小児脳神経外科担当診療教授として関西医科大学に赴任し、淺井昭雄前主任教授の下で臨床、教育、研究に携わってきました。私はこれまで小児脳神経外科手術、および成人の脳腫瘍を含め合計3,000例の手術を行ってまいりましたが、今後はさらに患者さんの負担が少ない内視鏡手術や脳血管内手術を推進していくとともに、最先端の術前シミュレーションや術中神経機能モニタリングを実施することで手術による合併症を可能な限り減らしていくよう努力していく所存です。また研究面では基礎の先生方と協力し、脳腫瘍や先天異常の遺伝子解析を実施し病態の解明を行い、新規治療法の開発を推進していくつもりです。教育面では学生さんに脳神経外科の臨床のみならず研究にも興味を持ってもらえるようにしていくとともに、一人でも多く脳神経外科を目指す学生さんが増えるようにできればと考えています。

脳神経外科は多くの科の先生方から患者様をご紹介、あるいはご協力いただくことによって成り立っている科です。そのため何かあればすぐに駆け付け笑顔で対応するフットワークの軽い医師の集団を目指していくつもりですので、お気軽にお声がけいただけましたらありがたく存じます。今後とも皆様のご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

略　歴

平成４年３月　大阪大学医学部卒業
平成４年４月　大阪大学医学部附属病院　脳神経外科
平成５年４月　市立吹田市民病院　脳神経外科
平成７年４月　大阪大学大学院入学
平成９年４月　ペンシルバニア大学留学
平成13年３月　大阪大学大学院修了、博士号取得
平成13年４月　市立泉佐野病院　脳神経外科
平成14年４月　国立大阪病院　脳神経外科
平成16年５月　大阪脳神経外科病院
平成17年６月　国立病院機構大阪医療センター　脳神経外科
平成25年４月　国立病院機構大阪医療センター　脳神経外科医長
平成26年４月　関西医科大学脳神経外科　診療教授(小児脳神経外科担当)
令和６年４月　関西医科大学医学部脳神経外科　主任教授

総合医療センター心臓血管病センター理事長特命教授　成子　隆彦

令和6年4月1日付けで関西医科大学理事長特命教授を拝命いたしました。昭和60年本学を卒業し、大阪市立大学第一内科（現大阪公立大学循環器内科）で研修、その後関連病院で勤務し、平成6年からアムステルダム大学心臓病理学教室（オランダ）に留学、平成8年から大阪市立総合医療センター循環器内科に勤務いたしました。前任地では、地域医療の中心として、最新の医療技術を提供してきました。循環器内科診療は大きく変貌しており、以前は心臓カテーテル治療が中心でありましたが、不整脈に対するアブレーション治療、弁膜症などのこれまで外科治療でしか治療しえなかった心疾患に対して、TAVIやMitraClipなどのカテーテル治療が開始され、心臓血管外科とのシームレスな連携がますます重要となっています。一方、超高齢化に伴い、増加している心不全患者について、心不全ネットワークを構築し、地域関係機関との連携を積極的に進めていく必要があります。平成31年に施行された脳卒中・循環器対策基本法では、循環器病診療・研究の充実、発展に向けた具体的な取り組みを進めるための基本計画の策定が義務付けられ、高度先進医療を担う当院の役割がますます増大しています。また、増え続ける高齢患者では、多疾患併存患者も増加しています。各診療科を跨いだ複合疾患に対して横断的かつ包括的な治療を推進し、患者さんを中心に据えた、質の高い医療を提供するために、スタッフ全員で力を合わせて、チーム医療を推進してまいります。母校である関西医科大学の更なる発展に向けて、共に歩んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

略　歴

昭和60年　関西医科大学卒業
昭和60年　大阪市立大学（現大阪公立大学）医学部第一内科研修医
昭和62年　大阪市立大学（現大阪公立大学）医学部第一内科研究医
昭和63年　多根総合病院　内科　医員
平成２年　ツカザキ記念病院　循環器内科　部長
平成６年　アムステルダム大学（オランダ）心臓病理学教室留学
平成８年　大阪市立総合医療センター　循環器内科　医長
平成12年　大阪市立総合医療センター　循環器内科　副部長
平成21年　大阪市立総合医療センター　循環器内科　部長
平成25年　大阪市立総合医療センター　循環器センター長
令和５年　大阪市立総合医療センター　副院長
令和６年　関西医科大学総合医療センター　理事長特命教授

医学部病理学講座病理診断科（附属病院）学長特命教授　田中　亨

令和6年4月1日付けで学長特命教授を拝命しました。自治医科大学病理学講座で長く病理診断、学生教育、研究に携わってきた経験を活かし、全力で関西医科大学病理学講座、附属病院病理診断科の発展に貢献する所存ですので、よろしくお願いいたします。まず、病理診断に貢献したいと考えます。前任の自治医科大学では、臓器専門性にこだわらず、広く病理診断を行ってきました。その経験をフルに活用して、病理診断を行いますので、臨床的なサポートをよろしくお願いします。また、医師国家試験を意識した学生教育にも力を入れます。具体的には、病理診断科に廻ってくる高学年の学生に対し、国家試験を意識させるような様々なミニレクチャーを行うつもりです。研究面では、自治医科大学の最後の時期に、liquid-liquid phase separation, super-enhancerあるいはoncofetal reprogrammingの研究を進めて来ました。これらは、分子生物学的な新しい概念ですが、腫瘍の増殖・分化に密接に関係していると考えています。腫瘍の遺伝子異常と腫瘍のphenotypeを繋げるkey stepとなる変化として、可能な限り、これらの研究を少しでも進めることができればと考えています。末尾になりますが、今回任命していただき、本当に感謝しています。本学の発展に強く貢献したいと考えています。

略　歴

昭和58年３月	信州大学医学部医学科卒業
昭和58年６月	東京都立駒込病院　病理科　非常勤医員
平成３年３月	大阪大学大学院医学研究科博士課程修了
平成６年４月	鹿児島大学医学部　病理学第一　助手
平成８年６月	自治医科大学　病理学講座　講師
平成９年２月	自治医科大学　病理学講座　助教授
平成14年５月	自治医科大学　病理学講座　教授
令和６年４月	関西医科大学　医学部病理学講座　学長特命教授

医学部内科学第二講座糖尿病科（附属病院）担当診療教授　入江　潤一郎

令和6年4月1日付で関西医科大学医学部内科学第二講座糖尿病科（附属病院）担当診療教授を拝命いたしました。私は平成8年に慶應義塾大学を卒業後、腎臓・内分泌・代謝内科に入局し、以降、糖尿病・肥満症の診療、教育、研究に主に従事して参りました。特に昨今注目を集めております、腸の機能を応用した糖尿病・肥満症治療に注目しており、関西医科大学で本領域から新たな医療を展開したいと考えております。また糖尿病診療は多職種の連携が重要ですが、より積極的に部門を横断して患者中心の糖尿病診療を行うため、センター化を目指して参ります。そのために、糖尿病診療の魅力が感じられる環境を整備し、医療スタッフの糖尿病診療のスキルアップを行います。そして地域の先生方とのネットワークを強化し、患者をシームレスに診療できる体制を充実いたします。また学生や若手医師には、恒常性を司る内分泌機構の破綻から生じる糖尿病の学問としての奥深さと実臨床の魅力を伝え、世界トップレベルの診療を行う糖尿病・内分泌領域の医師育成を行います。さらに糖尿病・肥満症の臨床では新たなデバイスや薬剤の開発が大変盛んであり、これまでの臨床研究の経験を活かし、新たな治療の開発に挑む所存です。これからご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

略　歴

平成８年３月	慶應義塾大学医学部　卒業
平成８年４月	慶應義塾大学病院　内科　研修医
平成10年５月	慶應義塾大学医学部助手（専修医）（内科学）
平成10年５月	JCHO埼玉メディカルセンター内科　医員
平成11年６月	国家公務員共済組合連合会　立川病院　内科医員
平成12年６月	慶應義塾大学医学部　助手（専修医）（内科学　腎臓内分泌代謝）
平成15年８月	米国・ピッツバーグ大学　臨床免疫学講座　留学
平成18年４月	北里大学北里研究所病院　内科　医長・糖尿病センター副センター長
平成19年10月	慶應義塾大学　分子代謝システム医学講座　特別研究助教
平成20年３月	慶應義塾大学医学部　腎臓内分泌代謝内科　助教
平成25年10月	慶應義塾大学医学部　腎臓内分泌代謝内科　専任講師
令和３年６月	慶應義塾大学医学部　腎臓内分泌代謝内科　准教授
令和６年４月	関西医科大学　医学部内科学第二講座　糖尿病科（附属病院）担当診療教授

医学部精神神経科学講座精神神経科（附属病院）担当診療教授　嶽北　佳輝

本年4月1日付で精神神経科（附属病院）担当診療教授を拝命しました嶽北と申します。関係各位の先生方には心より感謝を申し上げます。

私は平成15年に関西医科大学を卒業後、母校の精神神経科学講座に入局しました。木下利彦教授、加藤正樹先生にご指導を頂き、臨床並びに精神病に対する治療手段（抗精神病薬、電気けいれん療法）の研究に取り組みました。学位取得後は、ヨーロッパにおける精神薬理遺伝学の中心であったイタリアボローニャ大学セレッティ先生のもとで研鑽を積む機会を与えて頂きました。帰国後は関西医科大学総合医療センターにおいて、診療に加え、臨床薬理学研究の継続や電気けいれん療法研究チームの立ち上げを多くの後輩と共に行って参りました。令和5年10月からは附属病院に異動し、新たな臨床に取り組んでおります。

精神科領域は病態が未解明な疾患が多く、治療手段も対症療法に留まっております。この解消には病態を明らかにすることを通して、疾患修飾的又は根治的な治療手段が見いだされることが不可欠です。今後はこのような課題に取り組むことで、精神疾患に苦しんでおられる方々のために力を尽くしてまいりたいと思います。大学人として診療・研究・教育の3つを大切にしながら、与えられた職責を十分に果たせるよう精進する所存ですので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

略　歴

平成15年３月	関西医科大学卒業、精神神経科学講座入局
平成15年６月	関西医科大学附属病院精神神経科　研修医
平成18年６月	仁康会小泉病院　医員
平成25年３月	関西医科大学博士課程医学博士取得
平成26年４月	ボローニャ大学生物医学／神経運動科学教室　リサーチフェロー
平成28年４月	関西医科大学精神神経科学講座　助教
平成29年４月	関西医科大学精神神経科学講座　講師
令和２年４月	関西医科大学総合医療センター精神神経科　病院准教授
令和３年４月	関西医科大学医学部精神神経科学講座　准教授
令和５年10月	関西医科大学附属病院精神神経科　科長
令和６年４月	関西医科大学医学部精神神経科学講座精神神経科（附属病院）担当診療教授

医学部病理学講座病理診断科（附属病院）担当診療教授　内田　克典

本年2月1日付で関西医科大学医学部病理学講座／附属病院病理診断科診療教授を拝命いたしました。

私は平成6年に三重大学を卒業後、同泌尿器科に入局し、関連病院、ワシントン大学で泌尿器科医としての研鑽を積み、泌尿器科専門医、指導医を取得しています。その後平成16年に同大腫瘍病理学講座に入局、病理専門医、指導医を取得、また前立腺の発生に係る研究により学位を取得、ジョンズホプキンス大学に留学し、まれな前立腺癌について臨床病理学的研究を行ってまいりました。以降は泌尿器腫瘍病理および胆膵腫瘍病理をサブスペシャリティーとして研鑽を積むとともに、泌尿器癌および膵癌の臨床病理学的研究に携わってまいりました。

さて、現在の病理診断は高度化、複雑化しています。様々な臨床病理学的、分子病理学的見地から顕微鏡的に診断すべき疾病、状態が増加し、旧来の癌か否かといった疾病の種類、性状を診断するだけではなく、予後や治療選択につながる顕微鏡的所見を的確に診断し、報告する必要があります。最近ではゲノム医療にも関わるようになり、新たに設けられた分子病理専門の重要性も高まっております。

今後は臨床の先生方、患者様のニーズに応えるべく、的確な病理診断を提供し、与えられた職責を十分に果たせるよう尽力する所存です。ご指導、ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしく御願い申し上げます。

略　歴

平成６年３月	三重大学医学部卒業
平成６年５月	三重大学附属病院泌尿器科
平成８年４月	山田赤十字病院（現伊勢赤十字病院）泌尿器科　医員
平成11年４月	社会保険四日市病院（現四日市羽津医療センター）泌尿器科　医員
平成12年８月	Washington University, Renal Division
平成14年９月	三重大学附属病院泌尿器科助手
平成16年４月	三重大学腫瘍病理学(中央材料部)助教
平成23年８月	Johns Hopkins Hospital, Surgical Pathology
平成23年12月	三重大学腫瘍病理学(中央材料部)助教
令和３年８月	三重大学附属病院病理部講師
令和６年２月	関西医科大学　医学部病理学講座　診療教授

医学部放射線科学講座放射線科（総合医療センター）担当診療教授　鶴﨑　正勝

令和6年4月1日付で関西医科大学放射線科学講座（総合医療センター放射線科担当）診療教授を拝命いたしました。

私は平成7年に神戸大学を卒業後、母校の放射線科に入局し放射線医学の研修を開始いたしました。その後、兵庫県内の研修病院で画像診断・IVRを広く研修した後に神戸大学大学院および米国ノースカロライナ大学チャペルヒル校で腹部画像診断の研究を、国立がんセンター中央病院でIVRの研鑽を積みました。特にがん治療において手術、化学療法、放射線治療に続く4本目の矢である腫瘍IVRと言われる領域で多数の症例を経験しました。その後、島根大学、近畿大学でも術者として数多くの症例を経験してきました。さらに、肝癌のTACEや動注、最近保険診療となった肺や腎腫瘍に対するラジオ波焼灼術といった腫瘍IVRに加え、緩和領域のIVR、肝硬変に伴う門脈圧亢進症に対するIVR治療など多種多様の手技を導入し、質の高い手技を行うことで症例数も増やしてきました。

関西医大総合医療センター放射線科赴任後もさらに様々なIVR治療を導入発展させ、低侵襲かつ精度が高く、患者さんの苦痛の少ない治療を行いたいと思います。また総合医療センターにおいて画像診断や放射線治療も充実した運用を目指し尽力していく所存です。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

略　歴

平成７年	神戸大学医学部卒業　放射線科入局
平成７年	神戸大学医学部附属病院放射線科　研修医
平成８年	兵庫県立成人病センター放射線科　レジデント
平成10年	済生会兵庫県病院放射線科　医員
平成12年	神戸大学大学院医学研究科　生体情報医学講座放射線医学分野　入学
平成16年	神戸大学大学院医学研究科　生体情報医学講座放射線医学分野　助手
平成17年	米国ノースカロライナ大学チャペルヒル校　research fellow
平成19年	国立がんセンター中央病院放射線診断部 医員
平成22年	島根大学医学部附属病院放射線科　准教授
平成24年	近畿大学医学部 放射線医学教室　放射線診断学部門　准教授
令和３年	近畿大学医学部 放射線医学教室　放射線診断学部門　教授
令和６年	関西医科大学　医学部放射線医学講座（総合医療センター）担当診療教授

医学部病理学講座病理部（香里病院）担当診療教授　平野　博嗣

令和6年3月1日付けで関西医科大学香里病院病理部診療教授を拝命いたしました。

平成3年に大阪医科大学を卒業し、同大学第三内科に入局いたしましたが、ご縁があり兵庫県立成人病センター病理部に移籍いたしました。病理に移籍後は大部分を市中病院の病理部で勤務してきた関係上、臨床の先生方との距離が短く、臨床に密接した診断ならびに研究に主眼をおいて参りました。私の研究の大部分が臨床医の先生方との共同研究、あるいは症例報告で、患者様の診断・治療に役立つことを前提とした研究を行ってきました。私は「臨床に密接した診療ならびに研究」をモットーに私の経験を活かし、診療・教育・研究に精進する所存です。現在、病理医は絶滅危惧種と表現されており、全国的に不足傾向にあるといえます。医学生の皆さんに対してはできるだけ病理学に興味を持っていただけるお話をさせていただき、一人でも多くの学生さんが病理学を専攻していただければ幸いと考えております。また、各科臨床医の先生方に対しては絶えず「顔の見える病理」であることを心がけ、身近に診断や研究などのお話ができればと思っております。どんな些細な内容であってもお声掛けしていただけると幸いです。

今後ともご指導いただきますようよろしくお願い申し上げます。

略　歴

平成３年３月	大阪医科大学卒業
平成４年６月	大阪医科大学第三内科学講座 研修医
平成５年１月	兵庫県立成人病センター　研修医
平成６年４月	同　レジデント
平成８年４月	同　医員
平成10年４月	大阪医科大学第二病理学講座　助手
平成13年４月	国立療養所刀根山病院研究検査科　医員
平成14年９月	兵庫医科大学病理学第二講座　講師
平成17年７月	新日鐵広畑病院　検査部部長・病理科部長
平成23年３月	三田市民病院　病理診断科部長
平成24年３月	独立行政法人国立病院機構　刀根山病院　臨床検査科長
平成27年７月	札幌医科大学医学部病理診断科　准教授
平成29年６月	東京医科大学八王子医療センター　教授
令和６年３月	関西医科大学香里病院　診療教授

附属生命医学研究所侵襲反応制御部門研究所教授　小早川　高

令和6年1月1日付で生命医学研究所侵襲反応制御部門研究所教授を拝命いたしました。本部門の目指すところを簡潔に記したいと思います。ヒトや動物は危機状態を生き抜く潜在的な保護作用を進化させました。しかし、どのような能力が存在するのか、それらを効率的に誘導する刺激法は存在するのか、その方法は医療技術として応用可能なのかという諸問題はいずれも未解明です。私たちはこれまで匂い分子が誘導する先天的と後天的な情動応答を制御する分子や神経基盤の領域で世界をリードする研究を一貫して展開してきました。その過程で、独自に開発した一連の先天的恐怖臭が三叉・迷走神経の感覚受容体に結合し、脳幹に危機情報を伝達することで、低体温・低代謝を基盤とし、致死的な環境や病態での生存を可能とする人工冬眠・生命保護状態が誘導されるという新たな生物学現象を発見しました。これまでに、脳梗塞、心筋梗塞、敗血症性ショック、低酸素脳症などの難治性疾患モデルでの治療効果を確認し、その作用機序を解明してきました。進化が与えた潜在的な治癒能力を感覚刺激により人為的に誘導し、既存技術では治療困難な疾患に対応するという新たな概念を感覚医学・創薬として提唱しています。本部門ではその早期実用化による医療革命を目指し、基礎や臨床講座との連携を積極的に進めます。どうぞ宜しくお願いいたします。

略　歴

平成８年	東京大学理学部生物化学科卒業
平成14年	東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻博士課程修了（理学博士）
平成14年	東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻博士研究員
平成21年	（公財）大阪バイオサイエンス研究所研究員
平成28年	関西医科大学附属生命医学研究所准教授
令和６年	関西医科大学附属生命医学研究所侵襲反応制御部門研究所教授

退任挨拶

医学部衛生・公衆衛生学講座前教授　西山　利正

私は平成12年8月に公衆衛生学講座主任教授として着任し教育研究活動を行ってまいりました。

教育については、衛生・公衆衛生学領域は医師国家試験の17％を占める重要な分野であり、4学年では座学を、5学年では社会医学実習を、6学年ではまとめ講義を行い、一定の教育効果を得たと考えています。

研究では、フィールドワークを中心とする調査主体の活動を行ってまいりました。

JICAのラオス国保健医療サービス改善計画調査、パキスタン国保健健康管理システム整備計画調査、ベトナム国地方病院医療開発調査などのマスタープランに関与しました。外務省NGO連携事業として、NICCOのマラウイ共和国における農村開発にともなう移動診療所計画に参加し、マラリア、ビルハルツ住血吸虫症について罹患率の減少に一定の効果が得られました。また、外務省巡回医師団の団長として、アフリカ、東欧、中央アジア等の国をまわりました。

近年では、尿を用いた活動性結核の診断法の開発、ラオス国のカ媒介性ウイルス疾患の感染実相調査、女性用漢方薬におけるエストロゲン作用の相乗効果及び骨粗鬆症治療ならびに予防に関する研究、食と運動で高齢者のフレイルを予防するプログラム開発を行いました。

以上、私の研究調査は本学に赴任後、発展途上国をフィールドにしたものが中心でしたが、後半では植物性エストロゲンの研究、高齢者のフレイルに関する研究を行っておりました。

退任後の活動として、訪日外国人の医療、メディカルツーリズムの発展に貢献できれば幸いです。

医学部精神神経科学講座前教授　木下　利彦

令和6年3月末日をもって、精神神経科科学講座主任教授を退任させていただきます。関西医大を卒業して43年、教授を拝命して27年の長きにわたり勤務させていただきました。入局した頃は、まだまだ精神科に対する偏見が強い時代でした。しかしこの40年余りの間で精神科医療は大きく変貌を遂げました。一番変貌を遂げた科かもしれません。すべての世代、男女を問わず必要な科になりました。研修医にとっても必修の科目になっています。当然といえば当然の変化ではありますが、このような変化には驚かざるを得ないというのが実感であります。

次世代の精神科医には、知見の蓄積を図りプレシジョンメディスンを目指して頑張って頂きたいと思います。また幅広い教養を身に着けて深みのある精神科医にもなって頂きたいと思います。

最後に大過なく教授職を全うできましたことは至上の喜びであります。深く感謝申し上げます。

医学部外科学講座前教授　関本　貢嗣

平成31年4月に着任し、わずか5年間でしたが大変お世話になりました。

就任時より外科教室の抱えるいろいろな課題に対してきた中で、特に教室員の確保には苦労しました。学生や研修医の外科離れの傾向は厳しく、リクルート活動や様々な取り組みを懸命に行ったにもかかわらず新人の確保はうまくいきませんでした。しかし、教室OBや診療教授の力を借りて外部から人材を確保し、現在までなんとか教室員を減らさず維持できました。しかも新たに加わったメンバーも教室に打ち解けて活躍してくれています。おかげで手術数は私の着任前の平成30年が1,652件でしたが令和2年以降は2,000件を超え、英論文数は年60編程だったのが令和3年には100編を超えました。ここまで教室を維持することができて本当に安堵しています。

唯一残念なのはコロナの影響で教室員が一堂に会するような医局行事をあまりできなかったことです。しかし、そういったコロナ対策も含め、この5年間は変化に富み刺激的で充実した日々でした。その間、教室のために奮闘してくれた教室員や、相談に乗って頂いた大学関係者、そして親しくなった多くの皆様に、心より感謝いたします。

4月からは外科学講座が6分割され、各専門領域が大きく発展していくのだと確信しています。直接には何も手伝えませんが応援したいと思います。

最後になりましたが、関西医科大学が益々発展していくことをお祈りいたします。

医学部脳神経外科学講座前教授　淺井　昭雄

平成18年4月に同年開院したばかりの関西医科大学附属枚方病院（現附属病院）に診療教授（平成23年～講座主任）として赴任してから18年、あっと言う間に過ぎました。この間、まさに、科学技術の進歩と相まって、脳神経外科診療の質と守備範囲が劇的に向上・拡大するのを目の当たりにしてきました。私が赴任した当時は、現在の脳神経外科診療に不可欠な脳血管内治療や内視鏡下手術は、まだ、黎明期と言ってよく、エキスパートが全国で数えるほどしかいませんでした。私はと言いますと、開頭して顕微鏡を使って行う手術のエキスパートでしたので、助手の若い医局員に、手術のストラテジーから細かいtipsまで教えながら、ひたすら顕微鏡下で手術をこなしてきました。この分野ですら、体内電極を駆使した術中の神経機能モニタリングによる神経機能の温存、あるいは、覚醒下手術による言語野、運動野の温存など、以前の、経験と勘に頼っていた手術とは隔世の感のある進歩を遂げました。今や、開頭に比べて低侵襲の脳血管内治療は脳動脈瘤など脳血管障害の半数を治療するようになっていますし、同じく低侵襲の神経内視鏡下手術は、開頭では難度が高い頭蓋底腫瘍を鼻の穴から摘出可能としています。これらを見てきて私が思うのは、これらの進歩は決して天才による偶然の発見、発明によるものではなく、常に“必要性”という強い動機とそれを満たすための、科学技術的な努力によるものであるということです。我々、医療関係者に必要なのは、何が今必要かということをしっかり見極めて、それを科学技術分野のエキスパートと相談するという姿勢だと思います。後続の皆さん、医療の進歩のため、患者さんのために、どうか頑張って下さい。長年、どうもありがとうございました。

医学部眼科学講座前教授　髙橋　寛二

平成20年7月に眼科学講座主任教授を拝命し、令和6年3月に退任させていただくことになりました。

任期を振り返りますと、臨床、研究面では、教室員一丸となって、網膜剥離を主とする眼底疾患のレーザー治療、外科的治療に大きな業績を上げることができました。また、黄斑変性を主とする眼底疾患に新しく開発された機器（光干渉断層計）を用いて病態を解明し、他大学に先駆けて加齢黄斑変性の多くの診断基準を作成し、光線力学的療法、抗VEGF薬などの新しい治療の開発にも力を尽くしました。

教育面では医師国家試験や専門医試験の問題作成にも多く携わり、日本眼科学会の専門医試験委員長を2度勤めさせていただきました。任期中、多くの眼科学会を主宰し、広く学生や医局員の研究や教育指導に力を注ぎました。

あっという間の16年でした。当教室スタッフはもちろん、大学の各部署の多くの方に多岐にわたり支えていただきました。心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

医学部外科学講座前診療教授　濱田　円

平成25年10月に中根恭司教授の後任として本学に入職し、足掛け11年が経過しました。直腸癌手術の根治と機能温存両立のためには、統合された術前診断、術前治療、手術、病理診断、術後補助化学療法、長期予後管理が必要であることを訴えて、本学教授の皆様の前でプレゼンテーションをさせて頂いたことが昨日のようです。

当時の私のミッションは、若い先生に内視鏡外科学会技術認定を取得していただき、科学的な視点で消化管外科診療に取り組む文化を根付かせることでした。

幸い、第三内科岡崎和一教授、放射線科谷川昇教授、黒川弘晶講師、病理診断科植村芳子教授のご協力を頂き、後に高知大学腫瘍内科学教授に就任された佐竹悠良先生を附属病院にお招きし仕事が出来たことは本当に幸運でした。

癌の根治術において、最も重要なことは手術部位に局所再発が起こらないことです。これまで、入職時にプレゼンテーションした方針に基づき、腹腔鏡下手術の進歩を柔軟に吸収しながら行った一連の中下部進行直腸癌症例は、無用な永久ストマを回避しつつ術後局所再発が見られず、大きな意義を示すことができました。さらに、縫合不全を重症化させずに発見できるTAT造影法の開発や蛍光尿管カテーテルを用いた画像ナビゲーション手術を直腸癌に応用し、世界に発信できたことも良い思い出となりました。

私は4月から私の故郷である高知市の近森病院で消化器病センター長として仕事を続けることになりました。

関西医科大学の今後のご発展を祈念するとともに、学会等で皆様に再びお会いできることを楽しみにしています。ありがとうございました。

医学部外科学講座前診療教授　杉江　知治

平成25年４月に関西医科大学に着任以来、11年間、附属病院乳腺外科を担当させていただきましたが、令和６年３月をもちまして定年退任いたします。この間、皆様にはひとかたならぬご厚誼にあずかり、感謝申し上げます。

私が着任した頃の乳腺外科は、私を含めて３人の小所帯でした。その後、ハード・ソフト両面から診療体制を見直した結果、現在では、専門医５名を擁し、附属病院のがん診療をけん引する診療科の一つになったと思います。臨床研究では、実績がなかった先進医療をいち早く乳腺外科から始め、グローバル治験の依頼もこの２年間で急増しています。

さて、日本の外科を取り巻く環境は厳しいものがあります。若手医師の確保に加え、令和６年４月から始まる医師の働き方改革によって、外科医の労働環境改善が求められています。その中で乳腺外科は、女性医師の需要が高いだけでなく、外科のなかでも女性のライフスタイルに合わせて長く活躍できるサブスペシャリティー領域といえます。

私の在任中は、７名の女性医師が入局しましたが、この４月から乳腺外科が講座となることから、さらに多くの若手医師が入局してくれることを期待してやみません。私は、４月以降、暫く関西医科大学香里病院で乳癌診療を継続してまいりますが、後任の髙田正泰主任教授と共に、北河内地区の乳癌診療の拠点としての本学の責務を全うしてゆく所存です。

今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

看護学部老年看護学領域前教授　江本　厚子

令和4年に着任し、令和5年度末で退任することになりました。たった2年でお役に立てるかとても心配でしたが、関西医科大学の皆様からあたたかく迎えられ何とか任期を終えることができそうです。老年看護学領域は育休中のスタッフがおり、新任の教授である私と新しく着任した助教の4名で始まりました。まだコロナ感染の影響があり、実習施設から急遽実習中止や延期の要請が入り、調整に右往左往の連続でした。開学からのお付き合いである実習施設や附属病院からのご配慮で何とか令和5年度も実習できたことは本当にありがたいと感謝しております。令和4年度から始まった学部生のシミュレーション教育においては、看護学部全体の勉強会や講習会、領域ごとの演習の見学が始まりました。老年看護学領域としても学生に身につくような技術演習を実施しようと事前に教員の研修をしたり、事例の準備に随分時間をかけたりして少人数グループでの授業を実現し、学生からも概ね高評価を得たことは喜びです。大学院教育においては直接指導する院生はいませんでしたが、オムニバスの授業や修士論文・博士論文の主査・副査を務めることで院生の経験や看護感、研究への意欲などに触れることができて大変刺激的な経験をさせていただきました。教職員が一丸となって関西医科大学の教育・研究の質の向上をめざしていることを肌で感じることができた2年間でした。皆様のますますの発展を祈念いたします。

令和5年度医学部卒業式

医

3月6日(水) 13時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において「第70回医学部卒業式」が執り行われ、卒業生122名が式に臨みました。卒業生たちは木梨達雄学長の式辞、医学部金子一成学部長の祝辞を傾聴し、卒業生総代の吉村倫太朗さんから医師として社会に出る覚悟と決意、感謝の言葉が語られました。

式　辞

学長　木梨　達雄

本日ここに卒業式を迎えられた92期生122名の皆さんに、本学の教職員を代表して、心よりお祝いを申し上げます。ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、令和2年から続く新型コロナウイルスにより、キャンパスに共に集い、学舎や病院で顔を突き合わせ、学業に打ち込む時間を、自由にはもてなかったかもしれません。そうした苦境を乗り越えて、この場に集っておられる皆さんの努力に、敬意を表します。また、ご家族をはじめ皆さんを支えてこられた方々にも、感謝を込めてお祝いを申し上げたいと思います。

今年は、元旦に能登地方を大きな地震が襲い、多大な被害をもたらしました。未だ、生活再建には至っておらず、多くの人が困難な状況におかれています。今後、速やかな復興を願ってやみません。この能登半島地震では本学の医師・看護師も救援・復興の支援に駆け付けました。また、先のコロナパンデミックの際も本学医療人の獅子奮迅の働きで大阪の医療崩壊を瀬戸際で食い止めることに大きな貢献をしました。このことは「疾風に勁草を知る」のたとえどおり、いざというときに力を発揮する関西医大魂を世に知らしめることになりました。現在では警戒レベルは下がりましたが、変異を続けるウイルスが再び新たな脅威となる可能性もあり、ウィズコロナの配慮が依然として必要です。

卒業は始まり、commencementであると、卒業式の式辞でよく言われます。皆さんは6年間、医学部で知識と経験を積み重ね、多くの試験を乗り越えて無事に卒業し、医師として、社会へと羽ばたいていくでしょう。総合医や特定の診療科に進み専門医を目指す人、あるいは将来、研究の道に進む人、行政やビジネスの分野に進む人もでてくるかもしれません。多くの道を前に期待が膨らむと同時に、自分が進むべき道はどれだろうと不安に思っている人も少なくないと思います。初めから自分の生き方や人生の目的地が決定しているのではありません。自分がそこで貢献できることを考え、自ら一歩を踏み出すことによって、自分らしく生きる道が開けていきます。

式辞を述べる木梨学長

医師として学びに終わりはありません。もとより6年間の学修はその入り口であり、自ら足らないところを見つけ、学ぶ姿勢が今後、なにより重要になります。本学は、建学の精神「慈仁心鏡」慈しみ、めぐみ、愛を心の規範として、「自由・自律・自学」の学風のもと、患者さんに寄り添う心と探求心を持った良医を育てることを目標としています。分野別認証に適合したグローバルスタンダードの教育カリキュラムのもと、医学教育を進めてきました。我々は、皆さんの今後の成長を見守りながら、その成果を検証し、社会に貢献する優れた医療人が育つよう、さらに教育改革を続けます。

現代の医療は日進月歩で発展しています。ゲノム情報を基にした個別化医療、再生医療、免疫医薬、本学が推進している光免疫療法など、難病に対する新たな治療法が発展しています。低侵襲の手術手技、先進的なロボット手術も今後さらに発展するでしょう。これらの発展の裏側ではたくさんの試行錯誤とそれを支えた人間の熱意が隠されています。良い師を求め、その「熱意」や「問う力」、「探求心」にも触れてください。それが触媒となり、今度はあなたのなかに、自分が貢献できる場所が生まれ、さらに成長するきっかけとなります。本学および附属関連病院も、その場にふさわしい優秀な教員、医師が集い、先端医療を開発・提供する環境であるようにこれからも努力していきます。

新たな一歩を踏み出す皆さんには様々な社会変革の波

が待ち受けています。ICTやAIの技術により、今後エビデンスに基づいた医療がデジタル化によってさらに加速し、医療の様々なデータがオンラインで把握され、数字による効率化が追求されていくでしょう。医師の労働時間もICTやAIによって管理される時代がすぐそこに来ています。しかし、コロナ禍を経験した皆さんは、直接会わないとわからない表情や雰囲気などが、お互いの信頼関係の構築や、物事の重要性の理解に不可欠であることを学んだと思います。医療現場では患者さんが発する、言葉以外の重要なメッセージを読み取り、コメディカルスタッフと連携して治療する必要があります。患者さんの求めにいついかなる時にも応じ、患者さんの気持ちに寄り添い、患者さんに安心をあたえることは医療人が持つべき重要な資質であり、AIに置き換えることができない「慈仁心鏡」に通じる精神です。

本学での学びを糧に国内外を問わず、広く活躍する医療人として大きく成長することを願ってやみません。

以上、私の式辞と致します。

医学部長祝辞

医学部長　金子　一成

92期生の卒業生の皆さん、そして学業や生活を支えてこられたご家族、ご関係の皆様、本日はご卒業、誠におめでとうございます。この卒業式をもって、私と皆さんの間の「教員と学生」という関係は終わりを迎えます。そこで本日は、教員としての最後のメッセージをお伝えしたいと思います。

今日皆さんにお伝えしたいのは、「医師として決して思考停止に陥るな」と言うことです。「思考停止」とは、考えることをやめてしまう状態です。「ただ惰性的に動いているだけ」、「ルーティンをこなしているだけ」など、行動に自らの判断や意思が伴っていない状態です。自らの意思によって、判断を放棄してしまった人も同様に、思考停止の状態です。年齢にかかわらず、全ての人が思考停止になる可能性があります。

アメリカの免疫不全学会のスローガンに「THINK ZEBRA!」というものがあります。「馬のいななきを聞いたとき、その中にシマウマがいるかも知れないと考えよ！」という戒めの言葉です。毎日診療する発熱の子どもの中に、「10万人に一人の稀少疾患である先天性免疫不全症の子どもが紛れているのを見逃すな！」という意味のスローガンです。皆さんが何科の医師になろうとも、患者さんを診療するときには、「この病名で間違っていないのか？」、「この治療で良いのか？」と常に自問し、深く思考する医師になって欲しいと思っています。思考停止は「医師としての進歩と成長」を止めてしまいます。同じ病名の患者さんでも一人として同じ経過を辿ることはありません。その患者さんの抱えている背景因子や素因について考慮せず、診療ガイドラインに載っている治療法を漫然と行っているだけでは必ず見逃してしまうことがあります。そして、医師という職業を続ける限り、思考停止に陥らず、「THINK ZEBRA !」という意識を持ち続けて欲しいと思います。

祝辞を述べる金子学部長

最後になりますが、皆さんは明日から「関西医科大学在学生」から「関西医科大学卒業生」という立場になります。この「関西医科大学卒業生」という属性は、6年間の期限つきではなく、一生続きます。「関西医科大学卒業生」は、世界中で9,000名を超えており、皆さんが進むどの分野においても先輩たちの残された功績があります。卒業生たちが築きあげた歴史と伝統は皆さんが誇るべき財産です。たとえどのような困難があっても、本学の卒業生であることに自信と勇気を持って前に進んでください。そして時には遠慮なく先輩に相談してください。私たち教員はこれからも皆さんの成長と成功を応援しています。本日はご卒業、誠におめでとうございます。

令和5年度看護学部卒業式

看

3月19日(火) 13時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において「第3回看護学部卒業式」が執り行われ、卒業生93名が式に臨みました。木梨達雄学長による式辞の後、看護学部加藤令子学部長から祝辞が述べられ、看護師、保健師、助産師それぞれの進路に進む卒業生にエールが送られました。その後、卒業生代表の酒井菜々子さんから感謝の言葉が述べられました。

式　辞

学長　木梨　達雄

本日ここに卒業式を迎えられた3期生93名の皆さんに、本学の教職員を代表して、心よりお祝いを申し上げます。ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、令和2年から続く新型コロナウイルスにより、キャンパスに共に集い、学舎や病院で顔を突き合わせて学業に打ち込む時間を、自由にはもてなかったかもしれません。そうした苦境を乗り越えて、この場に集っておられるみなさんの努力に、敬意を表します。また、ご家族をはじめみなさんを支えてこられた方々にも、感謝を込めてお祝いを申し上げたいと思います。

今年は、元旦に能登地方を大きな地震が襲い、多大な被害をもたらしました。未だ、生活再建には至っておらず、多くの人が困難な状況におかれています。今後、速やかな復興を願ってやみません。この能登地震では本学の医師・看護師も救援・復興の支援に駆け付けました。また、先のコロナパンデミックの際も本学医療人の獅子奮迅の働きで大阪の医療崩壊を瀬戸際で食い止めることに大きな貢献をしました。このことは「疾風に勁草を知る」のたとえどおり、いざというときに力を発揮する関西医大魂を世に知らしめることになりました。現在では警戒レベルは下がりましたが、変異を続けるウイルスが再び新たな脅威となる可能性もあり、ウィズコロナの配慮が依然として必要です。

卒業は始まり、commencementであると、卒業式の式辞でよく言われます。皆さんは4年間、看護学部で知識と経験を積み重ね、多くの試験を乗り越えて無事に卒業し、看護師として、あるいは保健師や助産師として、社会へと羽ばたいていくでしょう。多くの道を前に期待が膨らむと同時に、自分が進むべき道はどれだろうと不安に思っている人も少なくないと思います。初めから自分の生き方や人生の目的地が決定しているのではありません。自分がそこで貢献できることを考え、自ら一歩を踏み出すことによって、自分らしい生き方や進路が開けていきます。

学びに終わりはありません。もとより4年間の学修はその入り口であり、自ら足らないところを見つけ、学ぶ姿勢が今後、なにより重要になります。本学は、建学の精神「慈仁心鏡」慈しみ、めぐみ、愛を心の規範として、「自由・自律・自学」の学風のもと、患者さんに寄り添う心と探求心を持った医療人を育てることを目標としています。分野別認証に対応するよう、高度な教育カリキュラムと実践的トレーニング、学外実習による看護教育を進めてまいりました。我々は、皆さんの今後の成長をしっかり見守りながら、その成果を検証し、社会に貢献する優れた看護医療人が育つ教育を進めます。

式辞を述べる木梨学長

看護師には、あらゆる年代の人々、あらゆる健康状態にある人々への看護実践がもとめられており、看護師の仕事の範囲と責任は重大です。専門的な知識と技術をもって、医師と連携して患者さんの診察を助けることから、生命の危機的状況にある人、手術を受けている人、療養期の人を助けるなど、患者さんにもっとも身近にいるものとして、速やかな回復をサポートする役割が求められています。活躍の場は、病院ばかりではなく、診療所、訪問看護ステーション、学校、事業所、老人保健施設など広く社会での活躍が求められ、男性看護師の活躍も広がってきました。

このような状況のもとで、専門的な看護職としての制度ができ、高度な看護技術や知識をもち、指導的な立場で活躍する人材の育成も活発になってきました。また、従来医師が行っていた医療行為の一部を看護師が担う特定医療行為が定められ、医師から看護師へのタスクシフトも広がっています。本学ではこれらのキャリアアップを支援する研修制度や大学院看護学研究科があります。さらに「学びなおしの場」としてリカレントスクールを設けて職場を長期に離れた場合でも速やかに復職できるように支援しています。自分の適正や資質を考えて、また、ライフイベントに対応して、それぞれが看護実践の場で、自分がさらに貢献できる場を見つけ、成長するきっかけをつかんでください。看護学部・研究科および附属関連病院も、その場にふさわしい優秀な教員、看護師、医師が集い、教育・研究を進め、その成果を医療の場で実践できるよう、これからも努力していきます。

新たな一歩を踏み出す皆さんには様々な社会変革の波が待ち受けています。ICTやAIの技術により、今後、エビデンスに基づいた医療がデジタル化によってさらに加速し、医療の様々なデータがオンラインで把握され、

効率化が追求されていくでしょう。医師・看護師の労働時間もICTやAIによって管理される時代がすぐそこに来ています。しかし、コロナ禍を経験した皆さんは、直接会わないと把握しづらい表情や雰囲気などが、お互いの信頼関係の構築や、物事の重要性の理解に不可欠であることを学んだと思います。医療現場では患者さんが発する、言葉以外の重要なメッセージを把握し、連携して治療する必要があります。患者さんの求めにいついかなる時にも応じ、患者さんの気持ちを把握し、患者さんに安心感をあたえることは医療人が持つべき重要な資質であり、AIに置き換えることができない「慈仁心鏡」に通じる精神です。

本学での学びを糧に国内外を問わず、広く活躍する医療人として大きく成長することを願ってやみません。

以上、私の式辞と致します。

看護学部長祝辞

看護学部長　加藤　令子

本日、ご卒業を迎えられた93名の卒業生の皆様、おめでとうございます。そして、これまで皆様を支えてこられたご家族・保護者の皆様にこころよりお慶びを申し上げます。本日卒業を迎えられた皆様は、新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミックの中で入学され、入学式はWebで行われました。そのため本日、この加多乃講堂に関係者の皆様にお集まりいただき、卒業式を挙行できましたことは私達にとりまして大きな喜びであります。

皆様は、大学生活に期待と希望を持たれ入学された中、1年次の多くの講義科目は遠隔授業となり、演習は学内でマスクとフェイスシールドを着用しての実施、また、2年次の実習は想い描いていたものとは異なる多くの制約の中で行われ、3年次は感染状況に影響を受けながらの実習となりました。この様な状況下での学びでしたが、皆様は医療者として大きく成長され、今日を迎えられることになりました。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、皆様にとってマイナスの要因となっただけではなく、看護を学ぶ者としてプラスとしての学びに繋がったことも多くあると思います。皆様は人と共に居ること、人と会い語り合うことや協働することの大切さを実体験されたことでしょう。

「看護」の「看」の漢字は手と目から成り立ち、よく見ることを意味しており、「看護」とは人の目や手を使い、看護を必要とする人をケアすることになります。現在、医療においてもAIやロボットの活用、また、様々なテクノロジーが発達し活用されています。しかし看護は、私達看護職者がツールとなるため、私達自身ひとりひとりのあり方が、看護の質を左右することになります。私達には、専門的な知識を基に、視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚の5つの感覚を用いてのアセスメント力、および、5つの感覚を用いたケア能力を高めることが必要となります。それは、視覚を活用し緊急に対応が必要な方を見極めるトリアージ、話を最後まで静かに聴くという傾聴、不安を抱えている方へのスキンシップや優しいまなざしというケアとなります。

看護について、近代看護の祖であるフローレンス・ナイチンゲールは「看護とは、新鮮な空気、陽光、暖かさ、静けさを適切に保ち、食事を適切に選択し管理することーこういったことのすべてを、患者の生命力の消耗を最小にするよう整えることを意味すべきである。」と述べています。私達の5つの感覚を常に研ぎ澄まし生活環境を整えることで、ケアを必要とされている方が回復する力を十分に発揮できるケアとなります。そのため、私達は日常において私達の感覚・感性を高めることが必要となります。

祝辞を述べる加藤学部長

また、これからの時代、医療者には必ず発生するといわれている大規模自然災害や新たな感染症へ備えることが求められています。さらに、我が国に在住する外国にルーツを持つ方々の増加により、多様な文化的背景や価値観を持つ方々へのケアである、トランスカルチュラル・ナーシングも求められます。そのため、皆様には日々のケアだけではなく、未来の社会や人々のために、ご自分が何に貢献できるのか、また、どのように貢献できるのかを考え、医療者としての知識を高めることが求められています。

皆様には国内だけではなく世界にも目を向け、最新の知識のみだけではなく、人々の生活のあり様など多くのことを学び・感じ取り、ご自身の感性を高め、現状に満足することなく、新たな看護を創造する力を持ち続けていただきたいと思います。そして、学びを深めたいと考えた時には、是非、本学の大学院で学び、さらなる看護の知や技術を高めていただきたいと思います。

本日の卒業生93名中、現在72名が附属施設へ、19名が他施設への就職予定です。

この予定者の中で7名が助産師として採用されました。また、7名は保健師として採用され、1名が本学大学院博士前期課程に進学致します。

本学で看護学を学んだことに誇りを持ち、今後は様々なことにチャレンジし、専門職者として自己成長に努めていただくことを期待して祝辞と致します。

ご卒業おめでとうございます。

今号掲載期間の主な出来事をご紹介します（記事掲載はオレンジ太字）

法人	**４月１日**	**入職式**
大学	**１月19日**	**第4回大学院企画セミナー**
	１月20日	リハビリテーション学部キャンパス見学会
	２月15日	**精神神経科学講座木下教授最終講義**
	２月20日	**外科学講座関本教授最終講義**
	２月27日	**学長賞授与式**
	３月６日	**医学部卒業式**
	３月６日	**研究医養成コース修了証授与式**
	３月11日	国際セミナーバーモント大学木田教授特別講義
	３月14日	**教員評価成績優秀者表彰式**
	３月14日	**大学院看護学研究科学位授与式**
	３月15日	**国家試験結果発表（医師）**
	３月19日	**看護学部卒業式**
	３月22日	**国家試験結果発表（看護師・助産師・保健師）**
	３月26日	**大学院医学研究科学位記授与式**
	３月26日	**医学会賞贈呈式**
	４月５日	**入学式**
附属病院	**１月20日**	**附属病院市民公開講座**
	１月22日	**がん教育講演会**
	２月13日	**がん教育講演会**
	２月19日	**がん教育講演会（がんプロ事業）**
	３月16日	**アレルギーセンター府民公開講座**
総合医療センター	**１月13日**	**第23回市民健康講座**
	２月17日	**第24回市民健康講座**
	２月19日	**ドクターカー納車式**
	３月４日	DMAT能登地震派遣報告会
くずは病院	**４月１日**	**再来受付機等導入**
卒後臨床研修センター	**３月28日**	**令和5年度臨床研修医・研修歯科医修了式**
	４月１日	令和6年度臨床研修医・研修歯科医入職式
	４月１日	令和6年度専攻医辞令交付式
オール女性医師キャリアセンター	１月24日	近畿地区近隣医科大学共同フォーラム
	３月８日	**女性医師奨励賞（アプリコット賞）及び第1回 女性医師活躍推進賞（アプリコットサポート賞）表彰式**

国際セミナーバーモント大学木田教授特別講義

医学会賞贈呈式

DMAT能登地震派遣報告会

臨床研修医・研修歯科医入職式

専攻医辞令交付式

「施設設備整備拡充事業資金」の募集のご案内

～日常への感謝を胸に「一流の大学」としての存続と改革へ～
皆様からのご協力をお願い申し上げます

平素より関西医科大学に対して、温かいご支援、ご協力を賜わり心より厚く御礼申し上げます。

本学は、昭和3年の創立以来慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを「建学の精神」とし、自由・自律・自学の学風のもと、学問的探究心を備え、幅広い教養と国際的視野を持つ人間性豊かな良医を育成することを「教育の理念」として多くの医師を世に送り出し、社会に大いに貢献してまいりました。

英国の教育専門誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）」が実施・集計した世界大学ランキング2024では、指標が総合大学に有利となるよう改定されたなか、西日本の私立大学で1位と高い評価を得ることができました。また、看護学部では、昨年度看護師国家試験合格率が100%となりました。これもひとえに皆様方のお力添えの賜物と感謝いたしております。

施設設備の整備状況ですが、建設業におけるかつて経験のない建築資材の高騰により、昨年より進行しております附属病院別館建設事業と総合医療センター西館建設計画においても、刻苦勉励しているところです。今後、総合グラウンドの整備も予定しており、100周年に向けてさらなる施設の充実を図ってまいります。

本学が、医学部と看護学部、リハビリテーション学部の3学部を有する医療系複合大学として社会の期待に応えるためにも、今年度も以下のとおりご寄付の募集をさせていただくことになりました。この趣旨をご理解いただきまして、何卒ご支援、ご協力賜わりますようよろしくお願い申し上げます。

■令和６年度募集要項

●募集要項

募金の目的：関西医科大学施設設備整備拡充事業資金
募集主体：学校法人関西医科大学
募集対象：保護者、同窓会員、本学関連の個人及び法人、その他
募集期間：令和7年3月末日まで

この募金の応募は任意です。

お問い合わせ先
関西医科大学法人事務局募金室
〒573-1010　大阪府枚方市新町二丁目５番１号
TEL：072-804-2146　FAX：072-804-2344
メール：bokin@hirakata.kmu.ac.jp
HP：https://www.kmu.ac.jp/donation/index.html

●募金のお手続き

申込書提出
募金室へ寄付申込書をご記入の上ご提出ください。
・申込書はホームページに掲載しております。
・メールに添付、または必要事項を本文にご記入の上、送信いただいても結構です。

お振込み
募金専用口座へお振込みください。
・インターネットバンキングからお振込み
・振込用紙を使用し窓口にてお振込み
・ATMからお振込み　※上限額がございます

確定申告
確定申告いただくと所得税が減税されます。
・募金室より寄付金受領書と減税証明をお送りします。
・住民税減税対象はお住まいの自治体によって異なります。

■税制優遇措置のご案内

個人の場合　課税所得額からの控除（所得控除）、または所得税額からの控除（税額控除）、いずれかの選択となります。

【所得控除】 年間にご寄付いただく金額（所得の40%が限度）が2千円を超えた場合は、2千円を超えた分について、その年の課税所得額から控除されます。

寄付金額（年間所得合計額の40%が限度）　－　2,000円　＝　所得控除額

【税額控除】 年間にご寄付いただく金額（所得の40%が限度）が2千円を超えた場合は、2千円を超えた分について、40%相当額が所得税額から控除されます。但し、所得税額の25%が限度です。

［寄付金額（年間所得合計額の40%が限度）　－　2,000円］　×　40%　＝　税額控除額（所得税額の25%が限度）

確定申告により所得税が還付されます

法人の場合

（1）特定公益増進法人寄付金
寄付金額のうち、一般寄付金の損金算入限度額と特別損金算入限度額の合計金額までが損金に算入できます。

（2）受配者指定寄付金
寄付金全額が当該事業年度の損金に算入できます。
日本私立学校振興・共済事業団を通し、本学を受取先に指定してご寄付をしていただく制度です。

令和6年1月から令和6年3月までにご寄付いただきました方々のご芳名（五十音順）を掲載させていただきます。
ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。

医

令和6年度　医学部教務関係日程表

1学年	
4/5(金)	入学式
4/8(月)～10(水)	新入生健康診断･ガイダンス
4/11(木)	1学期開講
4/18(木)･19(金)	合宿研修
5/3(金)～5/6(月)	休講(5月連休)
6/30(日)	創立記念日
7/23(火)	1学期終講
7/24(水)～8/16(金)	夏季休業
8/20(火)	2学期開講
10/25(金)～10/27(日)	学園祭
12/20(金)	2学期終講
12/23(月)～1/3(金)	冬季休業
1/6(月)	3学期開講
2/3(月)	3学期終講
3/5(水)	卒業式

2学年	
4/8(月)	1学期開講
4/24(水)	学生定期健康診断
5/3(金)～5/6(月)	休講(5月連休)
6/30(日)	創立記念日
7/18(木)	1学期終講
7/22(月)～8/16(金)	夏季休業
8/19(月)	2学期開講
10/25(金)～10/27(日)	学園祭
12/20(金)	2学期終講
12/23(月)～1/7(火)	冬季休業
1/8(水)	3学期開講
1/24(金)･28(火)･29(水)	臨床実習 P2(看護実習)
1/30(木)	3学期終講
3/5(水)	卒業式

3学年	
4/8(月)	1学期開講
4/23(火)	学生定期健康診断
5/3(金)～5/6(月)	休講(5月連休)
5/15(水)	解剖体追悼法要
6/28(金)･7/1(月)･7/8(月)	臨床実習 P3(医療面接入門)
6/30(日)	創立記念日
7/19(金)	1学期終講
7/30(火)～8/16(金)	夏季休業
8/19(月)	2学期開講
10/25(金)～10/27(日)	学園祭
12/23(月)	2学期終講
12/27(金)～1/3(金)	冬季休業
1/6(月)	3学期開講
1/6(月)	プレCBT総会試験
1/7(火)～2/10(月)	リサーチ P3(配属実習)
2/10(月)	3学期終講
3/5(水)	卒業式

(注) 休講日及び休業期間においても試験・授業等を行うことがあります。

4学年	
4/8(月)	1学期開講
4/24(水)	学生定期健康診断
5/3(金)～5/6(月)	休講(5月連休)
6/30(日)	創立記念日
7/22(月)	1学期終講
7/30(火)～8/26(月)	夏季休業
8/27(火)	2学期開講
10/1(火)	共用試験 CBT
10/2(水)～10/31(木)	臨床実習 P4a(総合臨床医学実習)
10/25(金)～10/27(日)	学園祭
11/1(金)･11/2(土)	臨床実習前 OSCE
11/5(火)･11/6(水)	臨床実習 P4b(医療情報学)
11/7(木)～12/6(金)	臨床実習 P4c(プレクリニカル･クラークシップ)
12/6(金)	2学期終講
12/9(月)～1/3(金)	冬季休業
1/6(月)	3学期開講
1/6(月)～3/21(金)	臨床実習
3/5(水)	卒業式
3/21(金)	3学期終講

※日程未定　臨床実習生(医学)認証式

5学年	
4/1(月)	1学期開講
4/1(月)～7/26(金)	臨床実習
4/23(火)	学生定期健康診断
4/27(土)～5/6(月)	休講(5月連休)
7/26(金)	1学期終講
7/29(月)～8/21(水)	夏季休業
8/22(木)	2学期開講
8/22(木)	中間試験
8/26(月)～10/31(木)	臨床実習
11/7(木)	クリニカル･クラークシップ総合試験
11/11(月)～12/20(金)	臨床実習
12/20(金)	2学期終講
12/23(月)～1/3(金)	冬季休業
1/6(月)	3学期開講
1/6(月)～3/21(金)	臨床実習
3/5(水)	卒業式
3/21(金)	3学期終講

※日程未定　クリニカル・クラークシップ中間検討会

6学年	
4/1(月)	1学期開講
4/1(月)～7/12(金)	臨床実習
4/8(月)	学生定期健康診断
4/27(土)～5/6(月)	休講(5月連休)
7/12(金)	1学期終講
7/16(火)～8/16(金)	夏季休業
8/19(月)	2学期開講
8/19(月)・8/20(火)	卒業試験①
8/22(木)～10/4(金)	まとめの講義(予備･自習含む)
9/27(金)～9/28(土)	臨床実習後 OSCE
10/16(水)・10/17(木)	卒業試験②
10/18(金)	2学期終講
10/21(月)	冬季休業開始(以降自習期間)
3/5(水)	卒業式

看

令和6年度　看護学部教務関係日程表

1~4年次	
4/2(火)	健康診断(2・3・4年)
4/3(水)～4/4(木)	在学生オリエンテーション
4/5(金)	入学式
4/8(月)	2～4年生1学期開講
4/8(月)～4/10(水)	新入生オリエンテーション
4/11(木)	1年生1学期開講
4/11(木)	健康診断(1年)
4/18(木)～4/19(金)	1年生合宿研修
6/30(日)	創立記念日
7/8(月)～7/19(金)	学期末試験期間
7/19(金)	1学期終講
8/5(月)～8/18(日)	夏季休業
8/19(月)	2学期開講
10/25(金)～10/27(日)	学園祭
11/11(月)～11/15(金)	学期末試験期間
11/15(金)	2学期終講
12/2(月)	3学期開講
12/25(水)～1/5(日)	冬季休業
2/25(火)～3/3(月)	学期末試験期間
3/3(月)	3学期終講
3/19(水)	卒業式

リ

令和6年度　リハビリテーション学部教務関係日程表

1~4年次	
4/1(月)～4/3(水)	国家試験・就職支援オリエンテーション(4年)
4/5(金)	入学式
4/5(金)・4/8(月)～4/10(水)	新入生オリエンテーション・健康診断
4/8(月)	2・3・4年生前期開講
4/10(水)	健康診断(4年)
4/11(木)	1年生前期開講
4/11(木)～4/12(金)	在学生オリエンテーション(2・3年)
4/18(木)～4/19(金)	新入生合宿研修
4/23(火)	健康診断(2・3年)
6/30(日)	創立記念日
8/1(木)～8/9(金)	学期末試験期間
8/9(金)	前期終講
8/12(月)～9/30(月)	夏季休業
10/1(火)	後期開講
10/25(金)～10/27(日)	学園祭
12/26(木)～1/4(土)	冬季休業
1/28(火)～2/7(金)	学期末試験期間
2/7(金)	後期終講
2/10(月)～3/31(月)	春季休業
3/19(水)	卒業式

※各学部教務関係日程表について、令和6年4月1日現在(変更の可能性有り)

大学関係役職員

医 看 リ

4月1日(月)から、大学関係役職員体制が次の通りスタートしました。

学　長　木梨達雄
副学長　金子一成
副学長　齋藤貴徳
副学長　岡田英孝
医学部長・医学研究科長　金子一成
看護学部長・看護学研究科長　加藤令子
リハビリテーション学部長　飯田寛和
リハビリテーション学部　理学療法学科長　池添冬芽
リハビリテーション学部　作業療法学科長　種村留美

医学部教務部長　岡田英孝
看護学部教務部長　李　錦純
リハビリテーション学部教務部長　佐藤春彦
医学部学生部長　谷川　昇
看護学部学生部長　大橋　敦
リハビリテーション学部学生部長　吉村匡史
大学院医学研究科教務部長　人見浩史
大学院看護学研究科教務部長　瀬戸奈津子

附属図書館長　伊藤量基
附属生命医学研究所長　日笠幸一郎
綜合研究施設長　清水(小林)拓也
実験動物飼育共同施設長　大隈　和
アイソトープ実験施設長　塩島一朗
入試センター長　中川　淳
教育センター長　西屋克己
国際化推進センター長　友田幸一
学　医　倉田宝保

医 看 リ

令和6年度医学部クラスアドバイザー、看護学部学年担任、リハビリテーション学部クラス担任

令和6年度について次のとおり決定しました。

【医学部】

1学年	北脇知己　教授（数学）
2学年	Raoul BREUGELMANS　教授（英語）
3学年	倉田宝保　教授（呼吸器腫瘍内科学）
4学年	蓮尾英明　教授（心療内科学）
5学年	長沼　誠　教授（内科学第三）
6学年	伊藤量基　教授（内科学第一）

【看護学部】

1年次	松井利江　准教授（がん看護学領域）
2年次	谷水名美　准教授（クリティカルケア看護学領域）
3年次	矢山　壮　准教授（精神看護学領域）
4年次	太田祐子　准教授（看護学教育領域）

【リハビリテーション学部】

理学療法学科	1年次	野村卓生　教授	作業療法学科	1年次	三木恵美　准教授
	2年次	前澤仁志　准教授		2年次	加藤寿宏　教授
	3年次	佐藤春彦　教授		3年次	福井信佳　教授
	4年次	中野治郎　教授		4年次	吉村匡史　教授

令和6年度入学試験結果

医 看 リ

令和6年度入学試験結果は以下の通りです。

※令和6年4月15日現在

医学部入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
特別枠学校推薦型選抜試験	47	10	10
地域枠学校推薦型選抜試験（大阪府）	34	5	5
地域枠学校推薦型選抜試験（静岡県）	36	8	8
地域枠学校推薦型選抜試験（新潟県）	19	2	2
一般枠学校推薦型選抜試験	347	16	8
特色選抜試験	101	11	4
一般選抜試験（前期）	2,297	160	61
一般選抜試験（後期）	419	4	5
大学入学共通テスト利用選抜試験（前期）	1,024	95	10
大学入学共通テスト利用選抜試験（後期）	49	1	1
大学入学共通テスト・一般選抜試験併用試験	984	116	13
計	5,357	428	127

看護学部入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
学校推薦型選抜試験〈専願制〉	180	36	36
〈併願制〉	103	13	2
一般選抜試験〈2教科型〉	347	55	15
〈3教科型〉	456	110	48
大学入学共通テスト利用選抜試験〈2教科型〉	133	27	2
〈3教科型〉	152	33	2
〈5教科型〉	98	25	0
計	1,469	299	105

リハビリテーション学部（理学療法学科）入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
総合型選抜試験	48	13	13
学校推薦型選抜試験〈専願制〉	35	21	21
〈併願制〉	21	13	12
一般選抜試験〈2教科型〉	27	15	2
〈3教科型〉	47	26	14
大学入学共通テスト利用選抜試験〈2教科型〉	33	29	8
大学入学共通テスト利用選抜試験〈4教科型〉	23	23	3
計	234	140	73

リハビリテーション学部（作業療法学科）入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
総合型選抜試験	16	8	8
学校推薦型選抜試験〈専願制〉	10	9	9
〈併願制〉	15	15	7
一般選抜試験〈2教科型〉	19	16	1
〈3教科型〉	28	21	13
大学入学共通テスト利用選抜試験〈2教科型〉	19	17	3
計	107	86	41

大学院医学研究科修士課程入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
第一次募集	5	5	5
追加募集	2	2	2
計	7	7	7

大学院医学研究科博士課程入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
第一次募集	13	13	12
追加募集	9	9	9
計	22	22	21

大学院看護学研究科入学試験結果

	志願者		合格者		入学者	
	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程
夏期日程	11	1	9	1	9	1
冬期日程	5	1	3	0	3	0
計	16	2	12	1	12	1

第118回医師国家試験結果

医

3月15日（金）に第118回医師国家試験の結果が発表されました。本学の新卒受験者122名のうち112名が合格し合格率は91.8%、新卒および既卒を合わせた受験者総数では、本学受験者132名のうち120名が合格し合格率は90.9%でした。

新卒の合格率は90%を超えたものの全国平均が95%を超えたため、本学にとっては厳しい結果となりました。

看護師・保健師・助産師国家試験結果

看

令和6年3月に看護学部を卒業した第3期生は、卒業生93名のうち91名が看護師国家試験に合格、92名が保健師国家試験に合格、さらに選択制である助産師コース卒業生8名の全員が、助産師国家試験に合格しました。

看護学部生全員が看護師、保健師の国家試験受験資格を取得できるのは、関西圏の私立大学では本学だけです。医学部・リハビリテーション学部と多彩な附属医療機関を持つ本学ならではの環境、地域を意識した本学独自のカリキュラムや充実したバックアップ体制が今回の結果につながりました。

令和6年3月卒業生（新卒者）国家試験結果

国家試験	回数	受験者数（人）	合格者数（人）	合格率（%）	全国平均	
					新卒者（%）	全体（%）
看護師	113	93	91	97.8	93.2	87.8
保健師	110	93	92	98.9	97.7	95.7
助産師	107	8	8	100.0	99.3	98.8

令和6年3月度大学院医学研究科学位記授与式

医

3月26日（火）15時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、木梨達雄学長をはじめ大学院医学研究科金子一成研究科長、同人見浩史教務部長、同中邨智之教務副部長や指導教員らが列席し「令和6年3月度大学院医学研究科学位記授与式」が挙行され、課程博士23名、論文博士4名、修士4名に、木梨学長から学位記が授与されました。その後の学長式辞では学位取得者の努力を労い、激励の言葉が贈られました。

学長から学位記を授与される修了生

令和５年度大学院看護学研究科学位授与式

看

3月14日（木）11時から枚方キャンパス看護学部棟2階講義室1において、木梨達雄学長、大学院看護学研究科加藤令子研究科長、関西医科大学看護同窓会安田照美会長らが列席し「令和5年度大学院看護学研究科学位授与式」が挙行されました。式では、木梨学長から博士前期課程の修了生5名、博士後期課程の修了生3名に学位記が授与されました。その後、木梨学長の告辞、加藤研究科長から祝辞が述べられ、修了生たちの学位取得の努力を労い、今後の新たな一歩を祝福する言葉が贈られました。博士前期課程、博士後期課程修了生の各代表者からは、教職員ならびに研究にかかわった方々への感謝の言葉と今後の決意が述べられました。

学長から学位記を授与される修了生

第23回関西医科大学医学会賞

医

令和5年12月2日(土)、枚方キャンパス医学部棟1階オープンラウンジにおいて、第23回関西医科大学医学会賞の応募講演が行われました。選考の結果、第23回関西医科大学医学会賞に選ばれた3名には、3月26日(火)15時40分から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂で行われた贈呈式にて医学会賞が授与されました。

1位　外科学講座　吉田　明史　助教

■演題「Efficacy of Nanofiber Sheets Incorporating Lenvatinib in a Hepatocellular Carcinoma Xenograft Model, Nanomaterials」

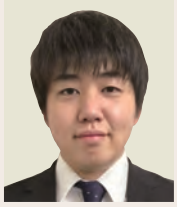
この度は、名誉ある関西医科大学医学会賞を受賞し大変光栄に存じます。大学院では、副作用のために抗癌剤治療を中断・中止せざるを得ない患者さんに対する新たな治療継続法という臨床的な問いに取り組みました。その結果、持続的に低容量の抗癌剤を放出するナノファイバーシートの共同開発(国立研究開発法人物質・材料研究機構の荏原充宏先生と)を経て、マウスを用いた実験において抗腫瘍効果および生存期間の延長効果を報告することができました。今後もこの受賞を励みにし、臨床現場への貢献を目指し、研究を継続して参ります。最後に、この研究において多大なるご指導とご協力を賜った関本貢嗣前教授、海堀昌樹教授、そして外科学・医化学・薬理学講座の先生方に対し、この場を借りて深く御礼申し上げます。

2位　内科学第二講座　堀谷　啓太　助教

■演題「Repetitive spikes of glucose and lipid induce senescence-like phenotypes of bone marrow stem cells through H3K27me3 demethylase-mediated epigenetic regulation」

この度は名誉ある関西医科大学医学会賞を賜り、大変光栄に存じます。2型糖尿病患者では心血管疾患の合併が多く、その患者数の増加が現代の大きな問題となっています。しかし現在のところ厳格な血糖コントロールだけでは心血管イベントの抑制効果を示すことができておらず、今回私は本学大学院に進学し、心血管イベントと関連がある血管内皮前駆細胞(EPC)へ糖・脂質代謝異常がどのような影響を与えるかを研究しました。結果、食後高中性脂肪血症を伴う食後高血糖は骨髄中のEPCの老化様変化を誘導し、2型糖尿病の病初期からの心血管リスク上昇につながる可能性を報告しました。本研究にあたり多大なご指導を賜りました塩島一朗教授、岩崎真佳先生ならびに内科学第二講座の先生方にこの場をお借りして心から御礼申し上げます。

3位　神経内科学講座　中山　健太郎　助教



■演題「Visualization of axonal and volume currents in median nerve compound action potential using magnetoneurography」

この度は名誉ある関西医科大学医学会賞を賜り、大変光栄に存じます。私は平成31年に大学院に進学し、令和2年から現在の神経磁界計測装置の研究に携わらせて頂きました。本装置は世界に2台しかなく、非侵襲的にヒトの神経活動を体外から可視化することを可能にしました。今回の研究では本装置の臨床応用に向けて、神経伝播の基礎や既存の検査との関係について報告しました。本研究で直接ご指導頂いた幸原伸夫先生との出会いは私の人生の中でも大きな転機であり、現在も臨床の合間を縫って研究に邁進しています。装置を開発された川端先生、足立先生、株式会社リコーの方々、また多大な御指導・御支援を頂きました幸原先生、整形外科の先生方、当教室の先生方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

研究医養成コース修了証書授与式

医

3月6日(水) 15時から枚方キャンパス医学部棟4階カフェテリアにおいて、研究医養成コース修了証授与が行われました。研究医養成コース運営委員会中邨智之委員長(医学部薬理学講座教授)から「ぜひ大学院に進学して研究を続けてほしい」と今後の活躍を期待する祝辞が述べられた後、研究医養成コースの所定の課程を修了した医学部6学年5名に修了証書が授与されました。

修了証書を授与された修了生(後列)

第3回女性医師奨励賞（アプリコット賞）及び第1回女性医師活躍推進賞（アプリコットサポート賞）表彰式

3月8日（金）17時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、第3回女性医師奨励賞（アプリコット賞）及び第1回女性医師活躍推進賞（アプリコットサポート賞）表彰式が、オール女性医師キャリアセンター植村芳子センター長と推薦者ほか列席のもと、行われました。女性医師奨励賞は、本学に勤務する女性医師を対象に、教育・研究・診療の分野において、優れた成果を納めた人物を表彰するもので、女性医師のモチベーションの維持と向上を図り、更なる活躍を支援することを目的としています。また女性医師活躍推進賞は、本学における女性医師の活躍推進に取り組む講座等の団体による活動内容を顕彰することにより、女性医師が安心して働くことができ、医師としてのキャリアを継続できる職場環境整備の普及啓発を図り、継続的な活動を支援するために、令和5年度に新たに創設されました。

今回受賞した4名と受賞団体代表者の1名には、植村センター長から賞状や記念品が手渡されました。

受賞者と植村センター長（後列中央）

第3回女性医師奨励賞（アプリコット賞）

【研究部門】

●内科学第三講座　山敷 宣代　講師

コメント：この度はアプリコット賞を頂戴し、誠に光栄に思います。臨床をしながら研究も続けたい、この気持ちを支え後押ししてくれた家族、指導者、仲間、スタッフの皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。自身は晩婚で子育て経験もありません。しかしダイバーシティ＆インクルージョンの時代、女性活躍の形も様々だと思います。これからは、男女かかわらず皆の個性を尊重し高められる環境整備に、微力ながら貢献したいと思います。この度は誠にありがとうございました。

【診療部門（3名）】

●外科学講座　向出 裕美　助教

コメント：女性医師奨励賞をいただき誠に有り難うございます。これまでご指導頂いた多くの先生方、共に切磋琢磨し支えて頂いた同僚・後輩の先生方に深く感謝申し上げます。今後、若い先生方が男女ともに外科というハードながらもやりがいのある科で、日々高い根治性を目指し、時に外科でしか救えない命に向き合い、外科医としてキャリアを積み活躍しながらも、心身ともに充実した日々を送れるような環境作りに微力ながら尽力できればと思います。

●小児科学講座　田邉 裕子　診療講師

コメント：アプリコット賞を授与いただき、誠にありがとうございます。仕事と育児の両立は想像以上に大変で、毎日あわただしく過ぎてしまっておりましたが、今回この栄えある賞をいただき、日々を振り返るきっかけとなりました。今回授与いただけましたのも、ご指導いただいた先生方、一緒に働いて支えてくれている同僚、スタッフの皆様のお陰だと心から感謝いたします。今後も女性、男性問わず、子育て世代の医師が活躍できる環境を整えることに微力ながら関わっていきたいと思います。

●眼科学講座　石本 敦子　助教

コメント：第1子（6歳）から第3子（1歳）の間1年毎に、佐々木香る先生のご指導で学会発表・論文作成をし、疾患に対する理解を深めさせて頂きました。私自身は無理も特別なこともしておらず、自ら声をあげずとも指導医や医局の先生方が苦心してつくりあげた人材育成・環境整備のレールにのらせて頂きました。まだ先はみえませんが、視野を広げて周りと対話し、できるときは少しでもチャレンジを選んでいけたらと思います。何よりも、働き続けられるのは職場の温かい心遣い、家族の協力のおかげです。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

第1回女性医師活躍推進賞（アプリコットサポート賞）

●眼科学講座（代表：佐々木 香る　准教授）

コメント：眼科の特徴として「女性医師が多い」、「外科的・内科的と様々な働き方が可能」があげられます。そのような中で、自然と「教室内規の子育て支援制度」が形づくられ、さらに医局内のチームワークの良さが男性医師の育休取得にもつながりました。今回、これらの活動が評価されたことは大変嬉しく、また励みにもなります。医局での支えあいにより、家族を大切にすることは、視野を広げ、ヒトとしての優しさに繋がり、ひいては医療人形成の根本となると思います。引き続き教室として、取り組みを続けてまいります。本賞を設置していただいた大学そしてオール女性医師キャリアセンターに感謝申し上げます。

精神神経科学講座木下利彦教授最終講義

医

2月15日(木) 15時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、医学部精神神経科学講座木下利彦教授の最終講義が開講され、山下敏夫理事長をはじめ学生、教職員など約130名が参加しました。

木下教授は「精神科医としての43年」と題して講演。自身の境遇を振り返りながら精神科医を目指した経緯や、精神疾患の患者が世界でどのように扱われてきたかを紹介しました。また今後の精神疾患治療に関し、薬以外の治療法の発展への期待と、国家において精神疾患の治療がいかに重要であるかを述べ、学生に向け「留学をして、英語圏で修業をしてほしい」と今後の成長を願い講義を締めくくりました。

講義後、山下理事長と木梨達雄学長が挨拶に立ち、27年間の主任教授としてのこれまでの労をねぎらい、今後の活躍を祈りました。最後に関係者から花束が贈呈され、記念撮影の後、最終講義は閉講しました。

最終講義を終えて記念撮影に収まる木下教授(最前列中央)と参加者

外科学講座関本貢嗣教授最終講義

医

2月20日(火) 12時50分から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、医学部外科学講座関本貢嗣教授の最終講義が開講され、山下敏夫理事長をはじめ学生、教職員など74名が参加しました。講義に先立って山下理事長と木梨達雄学長が挨拶に立ち、主任教授として講座を束ねる大任を果たした労をねぎらい、これまでの活躍をたたえました。

関本教授は「外科の限界に挑む　直腸癌局所再発への取り組み」と題して講演。直腸癌局所再発に対する手術は有用性があるものの長時間・出血多量となる課題があったこと、この課題を低侵襲な腹腔鏡下手術で解決し得ることを魅力に感じて早くから取り組み、日常診療で行えるまでになったことを語りました。そして、この局所再発への取り組みが多くの方々の理解と忍耐と協力に支えられて行えたことに感謝を述べ、講義を締めくくりました。

最後に関係者から花束が贈呈され、記念撮影の後、最終講義は閉講しました。

最終講義を終えて記念撮影に収まる関本教授(最前列中央)と参加者

第4回大学院企画セミナー

医

1月19日(金) 17時30分から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、北海道大学遺伝子病制御研究所佐邊壽孝客員教授を講師に迎え、令和5年度第4回大学院企画セミナーが開催されました。大学院医学研究科人見浩史教務部長の司会の下、佐邊教授がこれまで携わってきたがん研究に関して、「より自然で効果的な癌治療を目指して」をテーマに講演。がん患者の多くががんと同時に患う慢性心不全などの全身的循環障害の改善ががん治療にも効果を発揮すると仮定し、循環器内科と共同で取り組んできた循環器障害改善につながる研究の概要などを、世界的な研究の趨勢も踏まえながら講演しました。

教職員や大学院生ら41名が参加し、講演後の質疑応答では多くの質問が寄せられ、セミナーは盛り上がりを見せました。

講演する佐邊教授

学長賞授与式

2月27日(火) 11時30分から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、「令和5年度分学長賞授与式」が執り行われ、木梨達雄学長、西山利正学生部長、近藤麻理学生副部長(看護学部)が参加し、木梨学長から受賞者に表彰状と副賞が贈られました。あわせて、2023年G7貿易大臣会合大阪・堺推進協力協議会吉村洋文会長(大阪府知事)からの感謝状も手渡されました。

挨拶に立った木梨学長は、今回G7大阪・堺貿易大臣会合に際して通訳ボランティアとして活動したことへの称賛を述べ、英語というツールの有用性について語り、今後の活躍を願うメッセージを受賞者に送りました。

◆学長賞

(社会活動賞)	医学部	2学年	岡本	光洋さん
	看護学部	4年次	弘中	里歩さん

学長賞受賞者

感謝状について

10月28日(土)、10月29日(日)に開催されたG7大阪・堺貿易大臣会合において、会合に出席した各国の報道関係者に対して大阪各地域の伝統や魅力を発信するブースでの通訳を行うなど、学生ボランティアとして積極的な活動を行い、大阪・堺の魅力発信に大きく寄与したことから贈られたものです。

附属病院宮野看護師、香里病院田中臨床検査技師に文部科学大臣表彰

令和5年度医学教育等関係業務功労者に、附属病院看護部宮野喜代子看護師、香里病院臨床検査部田中敬一朗臨床検査技師が選ばれ、文部科学大臣表彰を受けました。

文部科学省では、国立、公立および私立の大学における医学・歯学に関する教育研究または患者診療などに係る業務に関し、顕著な功労のあった者を讃えることで、関係職員の士気を高揚し、もって医学または歯学教育の充実向上を図ることを目的として大臣表彰を行っています。今回の2名は長年の勤労や後進の育成に寄与した功績が認められ、表彰を受けるに至りました。

宮野看護師

令和5年度医学部教員評価優秀者表彰式

医

3月14日(木) 15時40分から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、令和5年度の「医学部教員の活動状況調査票」に基づく教員評価優秀者への表彰式が開催されました。

本学では、平成15年から、教員個人の活動状況を定期的に点検・評価することにより、教員活動の激励または改善のための助言を行い、本学の教育、研究、診療などの向上を図ることを目的に教員評価を行っています。対象者全員から提出された活動状況調査票をもとに一定の基準を達成した教員を表彰(※)しており、今年度は准教授6名、講師14名、助教33名が選出されました。表彰式では木梨達雄学長から代表の受賞者に表彰状と副賞が贈呈されました。なお教員評価表彰者一覧はホームページに掲載しています。

※各職位において通算3回表彰された教員は対象外

学長から表彰される受賞者

電子教科書導入

医

本学医学部では、令和6年度から電子教科書を導入し、授業における基本書として活用することを決定しました。これは、「新医学教育改革2023」として教育に携わる教員を対象に開催されたFD（Faculty Development）研修において医学教育の問題点として挙がった「学生が成書を持たない、読まない」という課題に対して提案、導入が決定されたものです。

電子教科書へは書き込みやマーカーを付すことも可能で、基礎から臨床まで幅広い領域の電子教科書を閲覧できるほか、オリジナルの参考書や確認問題などの自学自習コンテンツを、PCやスマートフォンなど様々な環境で自由に利用ができます。一部書籍は臨床研修時まで利用が可能であり、長く利用することができます。

大学・病院

講座および診療科・センターの開設・再編

4月1日（月）付で、以下の講座および診療科・センターが開設・再編されました。

再　編

● 医学部

再編前	再編後
外科学講座	上部消化管外科学講座、下部消化管外科学講座、肝臓外科学講座、胆膵外科学講座、小児外科学講座、乳腺外科学講座

● 附属病院（診療部）

再編前	再編後
外科	上部消化管外科、下部消化管外科、肝臓外科、胆膵外科、小児外科、乳腺外科

● 附属病院（診療科）

再編前	再編後
消化管外科	上部消化管外科、下部消化管外科

● 総合医療センター（診療部）

再編前	再編後
外科	上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆膵外科、乳腺外科

● 総合医療センター（診療科）

再編前	再編後
消化管外科	上部消化管外科、下部消化管外科

開　設

附属病院	糖尿病センター、認知症予防センター
総合医療センター	診療部：総合診療科、診療科：総合診療科、感染症内科、センター：MEセンター、認知症予防センター
香里病院	化学療法センター

附属病院

市民公開講座

1月20日（土）13時から、附属病院13階講堂において市民公開講座が開催され、約50名が来場しました。

松田公志病院長の挨拶後、市民公開講座委員会淺井昭雄委員長の司会のもと、消化器肝臓内科長沼誠部長による「おなかの病気 いろは ～身近な疾患から最新治療まで～」、呼吸器腫瘍内科倉田宝保部長による「劇的に進化した肺がん薬物療法」の2題が講演されました。どちらの疾患へも関心の高さがうかがえ、各演題後の質疑応答時には、健康管理や最新の治療・研究などに関する日頃の疑問が参加者から多数寄せられました。

参加者からの質問に答える長沼教授

附属病院　がん教育講演会

1月22日（月）11時から大阪府立枚方支援学校（枚方市）、2月13日（火）14時25分から枚方市立楠葉中学校（枚方市）、2月19日（月）13時10分から大阪府立寝屋川支援学校（寝屋川市）において、附属病院看護部松森恵理師長（がん性疼痛看護認定看護師）による各学校の生徒を対象にしたがんについての出張授業が行われました。これは大阪府が進める学校教育でのがん啓発活動の一環としての取り組みで、がんに関する知見の社会還元を目的としたものです。

授業では、がんに関する基礎知識から原因、予防などについてわかりやすい解説があり、集中力が切れないよう積極的に生徒とコミュニケーションをとりながら進行されました。授業終了後の質問時には、がんに関する知識が中高生世代にも浸透しつつあることをうかがわせる専門的な質問も寄せられました。

質問に答える松森師長

附属病院　アレルギーセンター府民公開講座

3月16日（土）14時30分から、附属病院13階講堂において「関西医科大学附属病院アレルギーセンター府民公開講座」が開催され、市民ら40名が参加しました。この日は「これだけは知っておきたい、アレルギーに関する知識」をテーマに講演が行われました。

アレルギーセンター小林良樹センター長の挨拶の後、香里病院耳鼻咽喉科濱田聡子部長が「知っておきたい花粉症の最新治療」、続いて附属病院皮膚科岸本泉助教が「ナゼおきる？どうなおす？かぶれ」と題してそれぞれ講演しました。また、外部講師による「アレルギー疾患に有効な家庭環境改善方法」も開講され、講演終了後は掃除機やハウスダストに関する展示コーナー、アレルギーセンタースタッフによる個別相談・質問コーナーが設けられました。

開演挨拶をする小林センター長

総合医療センター　第23・24回市民健康講座

1月13日（土）14時から、鶴見区民センター小ホール（大阪市鶴見区）において第23回市民健康講座が開催されました。杉浦哲朗病院長の挨拶後、菅俊光副病院長が座長を務め、ロボット支援手術センター徳原克治センター長の「もっと知りたい！ロボット手術～特に大腸手術について～」、消化器肝臓内科島谷昌明部長の「消化器病における内視鏡検査と治療～特に怖い胆道がん・膵臓がんを中心に～」、不整脈治療センター髙木雅彦センター長の「よく見かける不整脈とその治療法～その不整脈、放っておいて大丈夫？～」の3題が講演され、約100名が来場しました。

また、2月17日（土）14時から、守口文化センターエナジーホール（守口市）において第24回市民健康講座が開催されました。菅副病院長が座長を務め、耳鼻咽喉科・頭頸部外科朝子幹也部長の「今日からできる！花粉症対策～花粉症重症化ゼロをめざして～」、整形外科松矢浩暉部長の「足のつけ根や膝の痛みでお困りの方へ～股／膝痛の原因と対処・治療法について～」、腎泌尿器外科三島崇生部長の「泌尿器科疾患に対するロボット支援手術～前立腺がん・腎がん治療を中心に～」の3題が講演され、約300名が来場しました。

講演を行う松矢部長

総合医療センター　ドクターカー納車式

2月19日（月）13時から総合医療センター北館地下駐車場においてドクターカーの納車式が開催され、杉浦哲朗病院長、救命救急センター齊藤福樹センター長らが出席しました。新規導入となったドクターカーのレプリカキーが杉浦病院長に手渡された後、ドクターカーの機能紹介と車内見学が実施されました。今回納車されたドクターカーは運転時の揺れが最大限抑制され、広い患者室を備えるなど従来の救急車から機能性が大きくアップデートされています。また、電動ストレッチャーが搭載されたことでより安心・安全な搬送が可能となるなど患者さんや同乗するご家族、医療従事者に配慮された設計になっています。さらにエンジン駆動による発電システムを強化しているため、大規模災害発生時にはDMAT（災害派遣医療チーム：Disaster Medical Assistance Team）出動用車両としての活躍が期待されます。

新規導入されたドクターカー

くずは病院　再来受付機等導入

4月1日（月）から外来患者数の増加に伴う、サービス向上と診療機能強化を目的に、再来受付機、自動精算機、診察呼び込みシステムが導入されました。

今回のシステム導入により、他3病院（附属病院・総合医療センター・香里病院）と同様にプライバシーに配慮した外来診療を行える体制が整うことになりました。

くずは病院では、引き続き職員一同患者サービスの向上と診療機能の強化に取り組んでまいります。

導入された再来受付機

令和5年度臨床研修医・研修歯科医修了式

3月28日（木）16時から、附属病院13階合同カンファレンスルームにおいて、「令和5年度臨床研修医・研修歯科医修了式」が挙行されました。附属病院松田公志病院長から同院所属の研修医46名に、総合医療センター杉浦哲朗病院長代理の野村昌作理事長特任教授から同院所属の研修医8名に、附属病院歯科・口腔外科・口腔ケアセンター兒島由佳センター長から研修歯科医2名にそれぞれ修了証が授与されました。続いて、松田病院長、野村理事長特任教授から式辞が、卒後臨床研修センター伊藤量基センター長から祝辞が述べられました。最後に研修医を代表して植田晃史さんが答辞を述べ、穏やかな雰囲気の中、閉式しました。

答辞を述べる研修医代表

学会主催報告

令和6年1月～3月、本学が主催および事務局を務めた主な学会を紹介します。

日本発達系作業療法学会　第12回学術大会

■会　期　令和6年3月9日(土) ～10日(日)
■場　所　森ノ宮医療大学　コスモホール
■テーマ　いまをいきる当時者探求

主に小児リハビリテーションに携わる全国の作業療法士が、一堂に会して実践報告や研究発表を行う学術集会です。今大会は、当“時”者という視点から、乳幼児期、学童期、成人期と子どもが歩むライフステージをどう考え、今をどう支援するのかをテーマとし、各期の指定演題発表も企画されました。ハイブリット開催という形式を導入することにより、多数の方にご参加いただくことができました。
【事務局長：リハビリテーション学部作業療法学科　松島　佳苗　准教授】

学会賞等受賞情報

令和5年11月～令和6年3月の学会賞受賞者等を紹介します。

Outstanding Reviewer Prize of the Journal of Pancreatology 2018-23

医学部外科学講座　里井　壯平　診療教授
■授賞理由　査読員としての長期にわたる並外れた貢献
■授与団体　Journal of Pancreatology

日本解剖学会奨励賞

医学部解剖学講座　小池　太郎　講師
■テ　ー　マ　末梢感覚神経系の機能実現・維持に関するグリア細胞の形態学的解析
■授与団体　129回日本解剖学会学術集会

優秀演題賞

医学部呼吸器腫瘍内科学講座　勝島　詩恵　助教
■テ　ー　マ　アジア人向け悪液質新基準と予後との関連について
■授与団体　第12回日本がんリハビリテーション研究会

2023年度がん研究助成奨励金

医学部精神神経科学講座　舩槻　紀也　助教
■テ　ー　マ　胆管膵癌に対する高侵襲手術におけるせん妄の病態探求および新規治療法の確立
■授与団体　公益財団法人大阪対がん協会

2023年度がん研究助成奨励金

医学部外科学講座　張野　誉史　助教
■テ　ー　マ　食道癌オルガノイドを用いた免疫治療の効果予測と免疫応答の解明
■授与団体　公益財団法人大阪対がん協会

2023年度がん研究助成奨励金

医学部形成外科学講座　松岡　祐貴　助教
■テ　ー　マ　眼瞼脂腺癌における腫瘍境界の新規評価法　～低侵襲かつ正確な外科的切除を目指して～
■授与団体　公益財団法人大阪対がん協会

最優秀賞

医学部精神神経科学講座　清水　敏幸　大学院生
■テ　ー　マ　電気けいれん療法における β 遮断薬使用が与える影響に関するメタアナリシス
■授与団体　第36回日本総合病院精神医学会総会

※特に記載がない限り、本誌記載の職位は取材当時の内容です。

教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。
（主に令和6年1月1日～3月31日　※判明分のみ）

■ テレビ等

医学部救急医学講座 梶野　健太郎　准教授	NHK「クローズアップ現代」 （1月17日）	能登半島地震の発災を受けて、梶野准教授が石川県立中央DMAT本部長として被災者を医療が届きやすい環境に移す任務に従事する中で、これまでの災害で得た教訓を生かし、災害関連死を予防するため何が必要かについてコメントしたことが放送されました。
医学部内科学第一講座 宮下　修行　診療教授	関西テレビ「newsランナー」 （1月22日）	宮下診療教授がスタジオ出演し、毒性の強い溶連菌の感染者数が増加している要因や、傷口からの感染が多いこと、予防するためにけがをしたら放置せずにすぐに消毒や絆創膏などの対応をするようにとの見解を述べました。
医学部形成外科学講座 日原　正勝　准教授	NHK岡山 （2月20日）	電気ケトルによる子どもの熱傷をとりあげたニュースで、子どものやけどは大人に比べ重症化しやすいため、電気ケトルを子どもの手の届かないところで使用したり、電気コードを引っ張られないよう気を付けたりするよう注意を呼びかけた日原准教授のコメントが放送されました。
附属病院がんセンター 柴田　伸弘　診療講師	FMチャオ （3月2日）	がんライフ専門番組『がんライフアドバイザーのがん晴れる道しるべ』の「白血球減少症ってなあに？」をテーマとした特集で、専門家ゲストとして柴田診療講師がさまざまな質問に回答しました。
附属光免疫医学研究所	関西テレビ （3月6日）	堀ちえみさんの舌癌闘病をとりあげたコーナーで、最新の切らない治療法として光免疫療法が紹介され、令和4年に撮影された光免疫医学研究所内の映像が放送されました。
医学部内科学第一講座 宮下　修行　診療教授	関西テレビ「newsランナー」 （3月14日）	宮下診療教授がスタジオ出演し、はしか感染増加の要因について見解を示したほか、はしかは感染力が非常に強く感染した場合の重症化率が高いため、予防するためのワクチン接種と抗体検査が重要であると述べました。

■ WEBメディア等

医学部救急医学講座 和田　大樹　講師	時事ドットコム （1月22日）	能登半島地震における広域搬送拠点臨時医療施設（SCU）を扱った記事で、DMATとして出動し第2陣を指揮する和田講師が取材を受け「断水などで衛生環境が整わず、長期の避難所生活で衰弱している人もいる。これは高齢者や要介護者の災害関連死を減らすための活動だ」とのコメントが掲載されました。
医学部解剖学講座 岩下　洸　助教	QLifePro （1月24日）	岩下助教と立教大学の研究グループが、老齢になると記憶力が低下する原因の一つがメラトニンの脳内代謝産物であり、短期記憶から長期記憶への記憶の固定に関与する物質AMKの海馬における激減にあることを初めて突きとめたことが掲載されました。
医学部内科学第二講座 藤井　健一　講師	ダイヤモンドオンライン （2月26日）	心不全を扱った記事で、その初期症状や手術、薬物療法などの治療法に関する藤井講師による詳細な解説が掲載されました。
医学部小児科学講座 赤川　翔平　講師	日経バイオテク （3月19日）	赤川講師らの研究チームと株式会社フランソアおよび帝人株式会社が小児食物アレルギー患者に対する機能性大麦の摂取試験を開始したことが掲載されました。
附属光免疫医学研究所免疫部門 福山　英啓　教授 岡村　千絵子　助教 医学部微生物学講座 大隈　和　教授 上野　孝治　助教	日経バイオテク （3月29日）	福山教授らの研究チームが新技術で疑似ウイルスを作成し、新型コロナブースターワクチン接種後の効果を測定した研究について、概要が掲載されました。

■ 新聞・雑誌等

医学部麻酔科学講座 梅垣　岳志　准教授 附属病院看護部 柴崎　靖代　副師長	西日本新聞　夕刊 （1月26日）	特定看護師による医療行為をテーマとした記事で、本学附属病院の事例が取り上げられ、梅垣准教授（附属病院総合集中治療部副部長）や柴崎看護副師長のコメントが掲載されました。
看護学部 三木　明子　教授	毎日新聞　朝刊 （2月6日）	医療現場で医療従事者が患者や家族から迷惑行為を受ける「ペイシェントハラスメント」を取り上げた記事で、三木教授による調査の結果や、病院全体での取り組みが求められるとの三木教授のコメントが掲載されました。
総合医療センター 中森　靖　副病院長	読売新聞　朝刊 （2月14日）	免疫不全のがん患者のコロナ感染の際、薬が効かない耐性ウイルスに変異することがあるケースを取り上げた記事で、ウイルス解析により薬を変えるなどの対応を行った総合医療センターが取り上げられ、手引きにない投薬に医療機関が二の足を踏むことによる患者の置き去りを懸念した中森副病院長のコメントが掲載されました。
医学部形成外科学講座 光井　俊人　診療講師	読売新聞　朝刊 （2月23日）	難治性皮膚潰瘍を取り上げた記事で、本学附属病院での治療例と、光井診療講師による受診の目安の解説が写真付きで掲載されました。
医学部耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学講座 日高　浩史　准教授	毎日新聞　朝刊 （3月4日）	難聴や補聴器をテーマにした「第28回耳の日セミナー耳の健康を考える」で日高准教授が補聴器の満足度についてコメントしたことが掲載されました。
医学部形成外科学講座 日原　正勝　准教授	読売新聞　朝刊 （3月15日）	電気ケトルによる乳幼児のやけどに注意を呼び掛ける記事で、本学附属病院での診察事例を対象とした調査結果や、日原准教授による重症化の危険を指摘するコメントが掲載されました。
医学部小児科学講座 赤川　翔平　講師	化学工業日報 （3月25日）	赤川講師が所属する本学小児科学講座が、帝人株式会社および株式会社フランソアと共同で、機能性大麦継続摂取による小児の鶏卵アレルギーへの影響を観察する試験を開始した旨が、掲載されました。
医学部耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学講座 日高　浩史　准教授	毎日新聞　朝刊 （3月29日）	難聴や補聴器をテーマにした「第28回耳の日セミナー耳の健康を考える」で、日高准教授が「快適な補聴器ライフを送るために～耳鼻咽喉科医による診断、処置、手術～」をテーマに講演を行い、その内容が掲載されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

編集後記

今年の入学式は桜の盛りに挙行され、３学部学部生が全学年揃った新たなスタートに、文字通り花を添えるようでした。

通勤していても真新しい制服に身を包んだ学生さんを見かけ、期待に胸を膨らませるような表情にはどこか安心感を覚えます。

社会に出てもやはりこういった節目には襟を正し、新年度を新たな気持ちでスタートできたらと思います。（M）

関西医科大学広報　Vol.65

発　行　学校法人　関西医科大学
編　集　広報戦略室
〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1　TEL 072-804-0101（代表）
FAX 072-804-2638
https://www.kmu.ac.jp/
E-mail:kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp
令和6年5月17日（金）発行